

若狭町地域公共交通計画



令和6年（2024年）3月 若狭町

目 次

I	計画の概要	1
1.	背景・目的	1
2.	計画の位置づけ	2
3.	計画の区域	2
4.	計画期間	2
II	地域および公共交通の現状	3
1.	地域の現状	3
2.	公共交通の現状	16
3.	まちづくりの上位・関連計画等	26
III	町民等の外出状況・意識等	29
1.	町民へのアンケート	29
2.	運行エリアの居住者へのアンケート	36
IV	今後に向けた課題	39
1.	若狭町の地域・公共交通の現状・問題等の要点	39
2.	今後に向けた着眼点・課題	42
V	若狭町の公共交通がめざす姿と方向性	44
VI	今後に向けた取り組み（事業）	46
1.	取り組み（事業）の体系	46
2.	各取り組み（事業）の内容	48
VII	今後の進め方	63



計画の概要



1. 背景・目的

本町の公共交通は、嶺南地域の基軸としてのJR小浜線、滋賀県へつながるJRバス若江線、町内の各地区と駅や主な施設をつなぐ町営のコミュニティバス（常神三方線）およびわくわくタクシー（デマンドタクシー）等が運行しており、これまで町や運行事業者による種々の取り組みを行ってきました。しかしながら現状では、人口減少、少子・高齢化、町民のクルマ中心の外出スタイル等による利用客の減少や、運行事業者の乗務員不足の深刻化等により、公共交通の運営はきわめて厳しくなっています。

一方、本町では今後も高齢化が進む見通しであり、クルマを使わない人が増える可能性があることに加え、2024年の北陸新幹線敦賀駅開業によって多くの人々が地域に訪れることに期待されるため、まちづくりにおける公共交通の役割はますます重要になると考えられます。

このような中、「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」（平成19年（2007年）法律第41号）が平成26年（2014年）、令和2年（2020年）、さらに令和5年（2023年）に一部改正され、地域の関係者の連携・協働（共創）を通じ、利便性・持続可能性・生産性の高い地域公共交通へ再構築を進めることとされています。また本町のまちづくりの最上位計画である「若狭町総合計画」においても、「持続可能な地域公共交通の実現」を主な取り組みとして掲げています。

これらの背景から、この度、本町にとって望ましく持続可能な地域公共交通の実現に向け、町民・利用客、各公共交通の運行事業者、各分野の関係者・行政等が一体となって取り組みを進められるよう、今後の取り組みの方向性、考え方を示すマスタープランとして「若狭町地域公共交通計画」を策定しました。

2. 計画の位置づけ

「若狭町地域公共交通計画」は、「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」に基づくとともに、本町のまちづくりの最上位計画である総合計画の考え方をふまえた計画であり、各分野の関連計画や取り組みとの連携を図りながら進める計画です。



3. 計画の区域

本計画の計画区域は、**若狭町全域** とします。

4. 計画期間

本計画の計画期間は、**令和6年度(2024年度)～令和10年度(2028年度)**の5年間とします。



地域および公共交通の現状



若狭町の地勢、人口、施設の立地状況等に関する地域の状況、及び町内を運行する鉄道・バス等の公共交通の現状は、以下のとおりです。（*以下は、基礎調査期間に入手可能な情報をもとに整理した内容です。）

1. 地域の現状

1-1. 位置・地勢

- 若狭町は、福井県南西部の嶺南地域の中央に位置し、西側は小浜市、東側は美浜町に接し、南東部は滋賀県に接しています。
- 平成 17 年に三方町と上中町が合併して誕生した町であり、約 179km² の町域に、現在、約 1 万 3 千人が暮らしています。
- 若狭湾国定公園の中心部にあり、ラムサール条約に登録された「三方五湖」のほか、瓜割の滝、北川など水資源が豊富な町です。また、多数点在する遺跡や古墳、若狭街道の宿場町「熊川宿」、福井梅発祥の地など、自然、文化・歴史の資源が豊富にある町です。



1-2. 人口等の状況

(1) 人口の推移

- 本町の人口は、昭和 50 年代からすでに減少が続き、現在の総人口は 1 万 5 千人を下まわっており、昭和 55 年から 2 割以上減っています。
- また、少子・高齢化も進んでおり、高齢化率は 4 割近くとなっています。高齢化が進むことにより、今後、外出手段の確保がますます重要になるものと考えられます。



国勢調査より

(2) 世帯数の推移

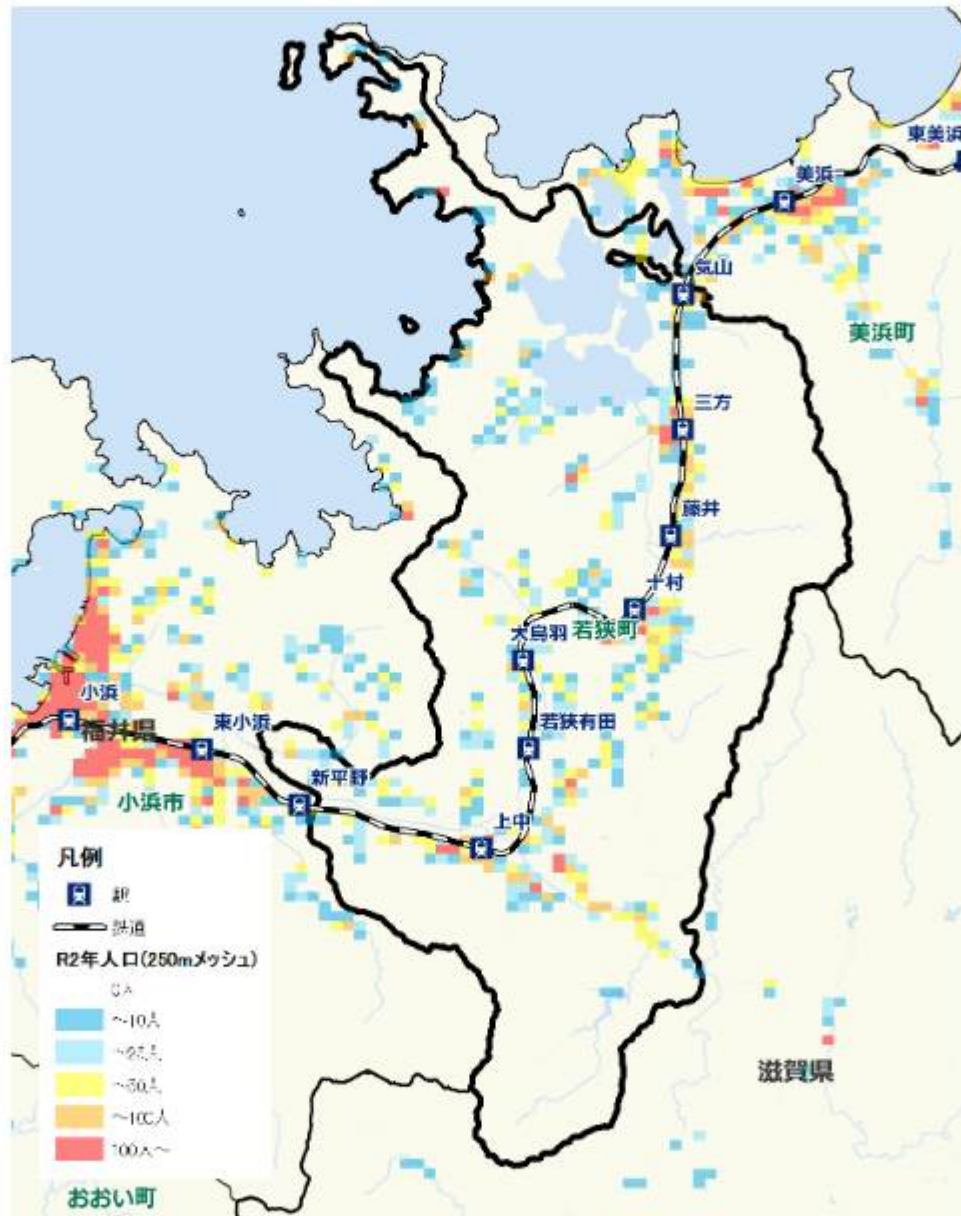
- 人口が顕著に減少している中、世帯数は減少しておらず、その結果、世帯当たりの人数が減少している状況です。
- 世帯の構成が変化することで、今後、家族や地域での助け合い等にも影響する可能性があります。



国勢調査より

(3) 人口の分布状況

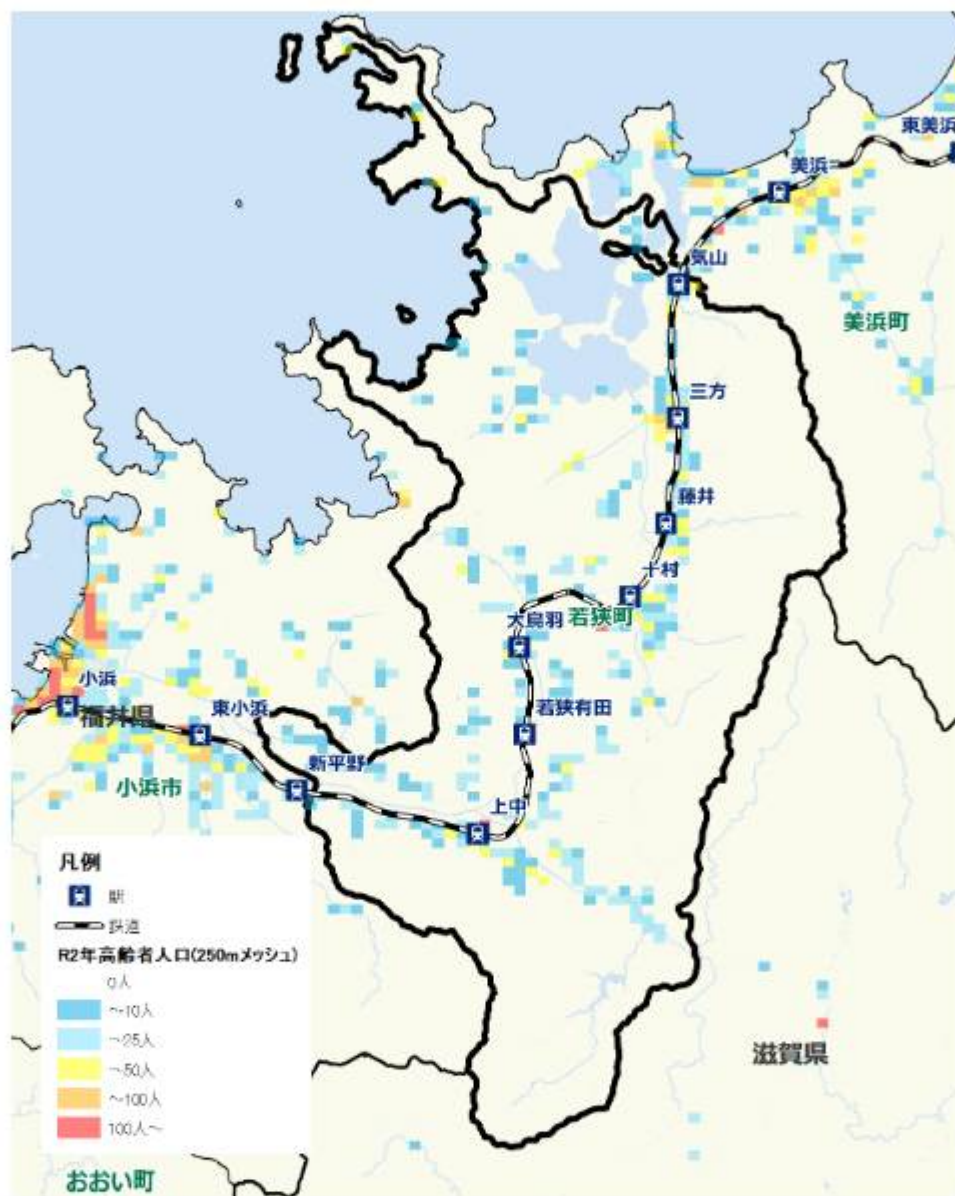
- 人口は、三方駅や上中駅等のJR小浜線沿線と、若狭街道（鯖街道）沿いに比較的集まっているものの、極端な集中はなく町域に広く薄く分布している状況です。
- 人口が広く薄く広がっているため、鉄道や路線バス等で全てをカバーするのは難しい状況です。



国勢調査 (R2) より

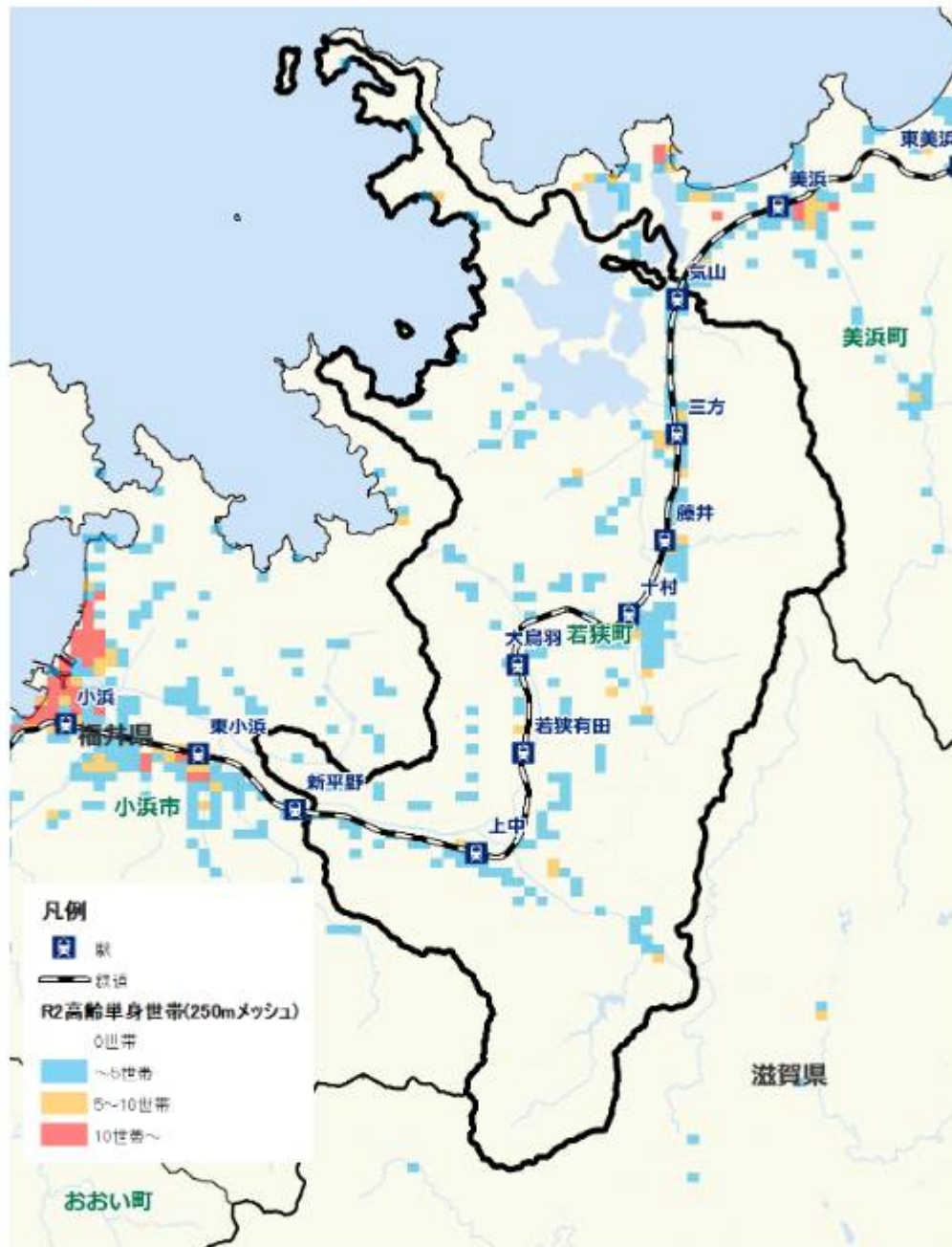
(4) 高齢者人口の分布状況

- 高齢者人口も、総人口と同様に JR 小浜線や若狭街道の沿線に比較的集まっているものの、町域に広く薄く分布しています。



国勢調査 (R2) より

(参考：一人暮らしの高齢者の世帯)

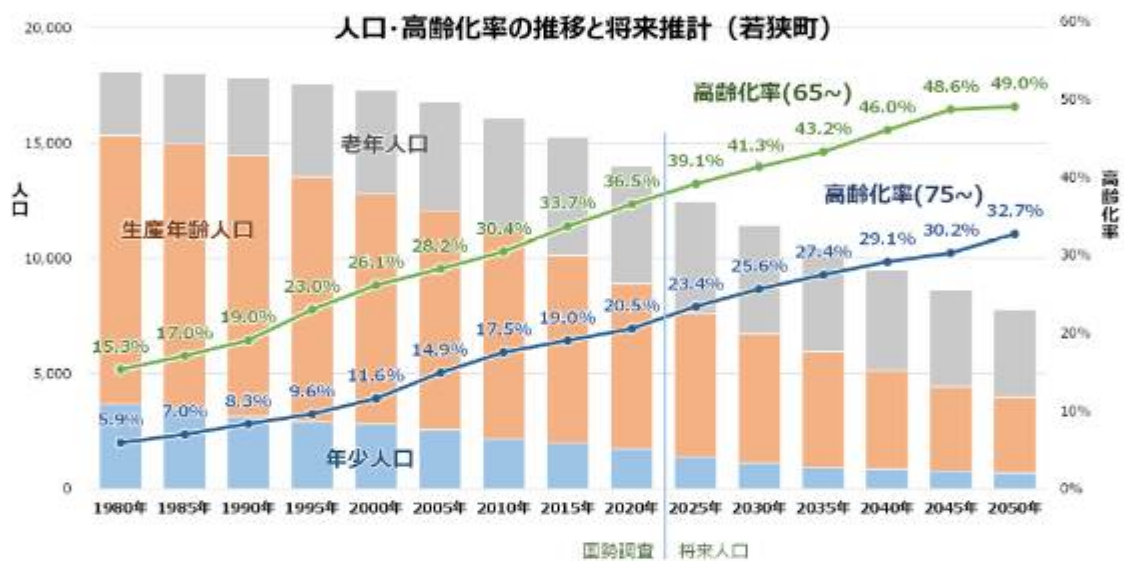


国勢調査 (R2) より

(5) 将来人口等

1) 将来人口の見通し

- 将来推計によると、現在の傾向が続いた場合、今後も本町の人口は着実に減少する見通しです。また少子・高齢化が進み、高齢化率はさらに高くなる見通しです。人口が減少する中、高齢者等の外出手段を確保することが、今後ますます重要となります。



国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所資料より

1-3. 主要施設の立地状況

(1) 公共・公益施設の立地状況

- 本町の主な施設（役場庁舎、診療所、ホール、図書館等）は、上中駅周辺、三方駅周辺に立地しています。また、美浜町との町境（気山駅付近）に、美方高等学校、レイクヒルズ美方病院が立地しています。
- なお敦賀市、小浜市に総合病院が立地しており、嶺南地域の各市町からの利用があります。



レイクヒルズ美方病院



美方高等学校



三方診療所



リブラ若狭



上中診療所



リブラ若狭

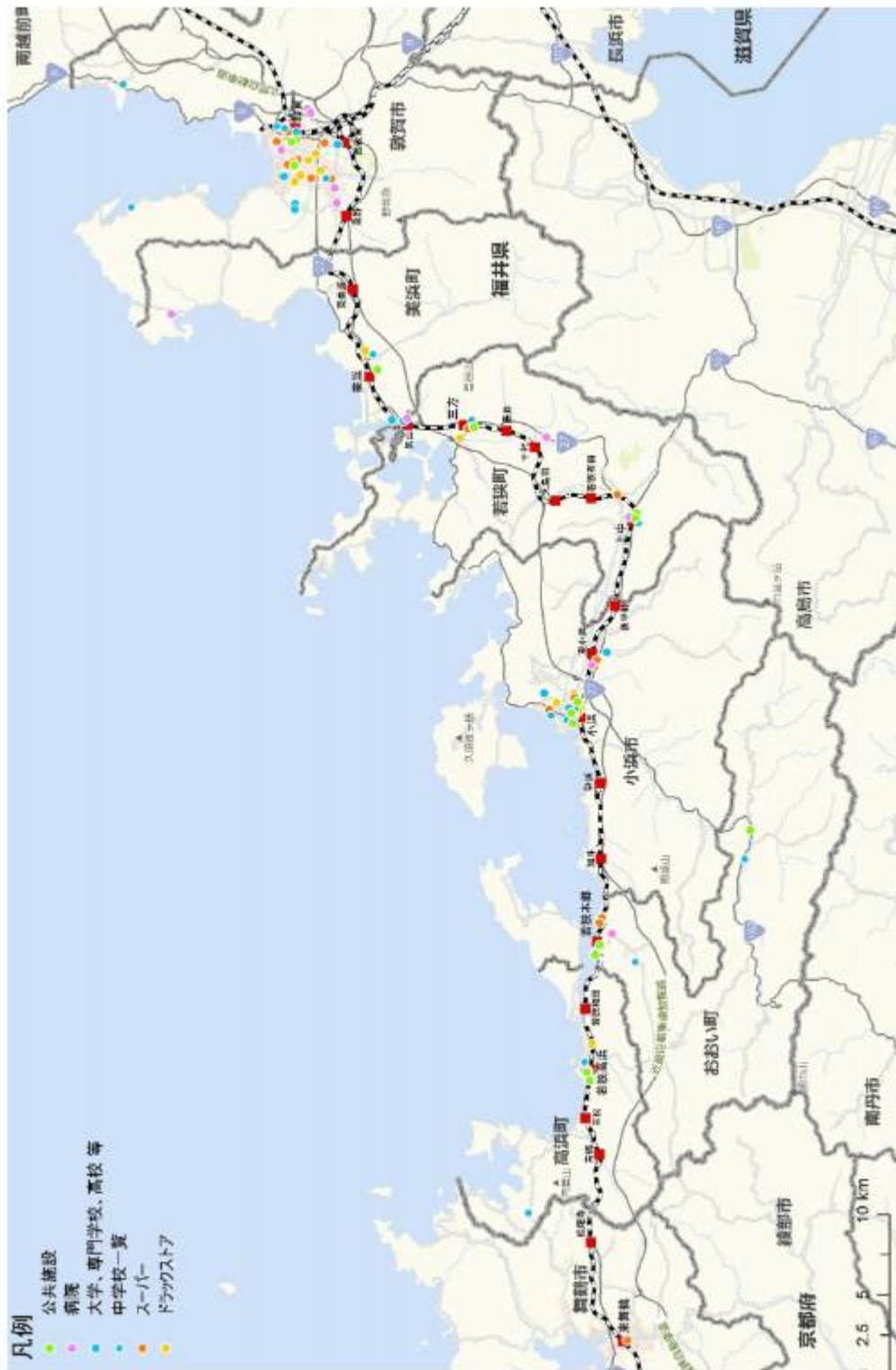
国土数値情報に情報を追加して作成

(2) 店舗等の立地状況

- 町内の大規模小売店としては、上中駅付近に「PLANT 2」が立地しています。その他、町内にはショッピングセンター「レピア」やドラッグストアが立地しています。
- なお、敦賀市、小浜市に、複数の大規模店舗が立地しており、嶺南地域の各市町からの利用があります。



参考：嶺南地域の施設の立地状況



1-4. 町民等の移動の状況

(1) 通勤・通学

- 嶺南地域では、いずれの市町でも、各市町内で通勤・通学する人が大半を占めており、若狭町民も、町内で通勤・通学している人が多くを占めています。
- 若狭町から他市町への通勤・通学では、小浜市に向かう動きと、敦賀市に向かう動きが多くなっています。

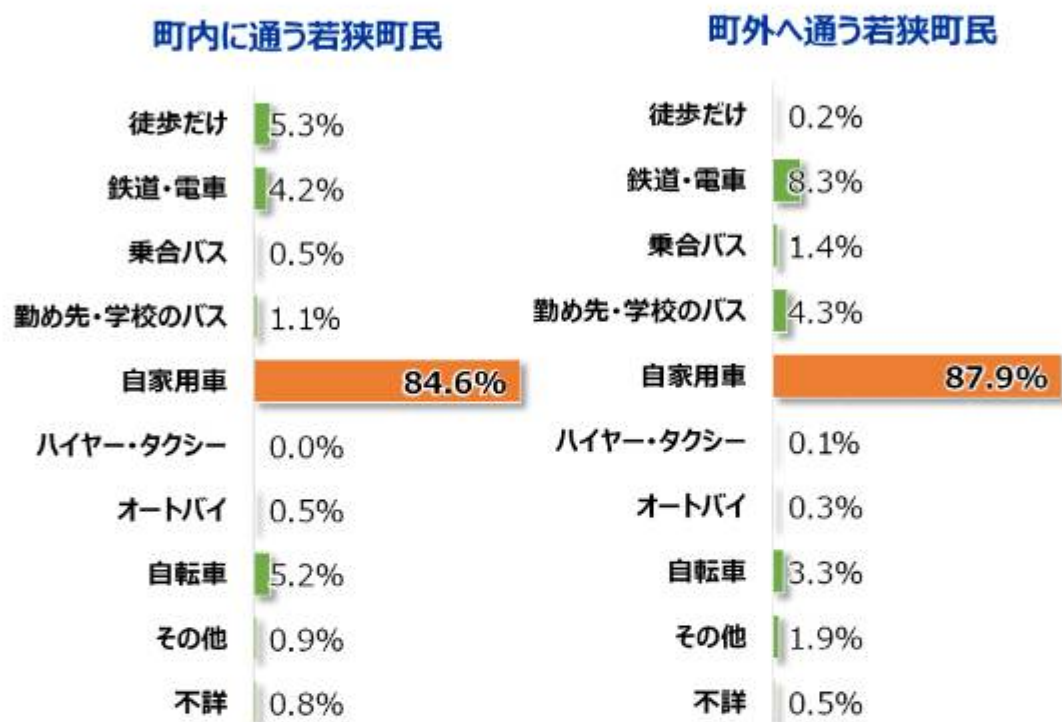
通勤・通学の動き



国勢調査より

(2) 通勤・通学の交通手段

- 町民の通勤・通学の手段は、町内に通う人、町外へ通う人のいずれも、クルマが突出して多くなっており、鉄道やバスで通う人は、きわめて少ないのが現状です。

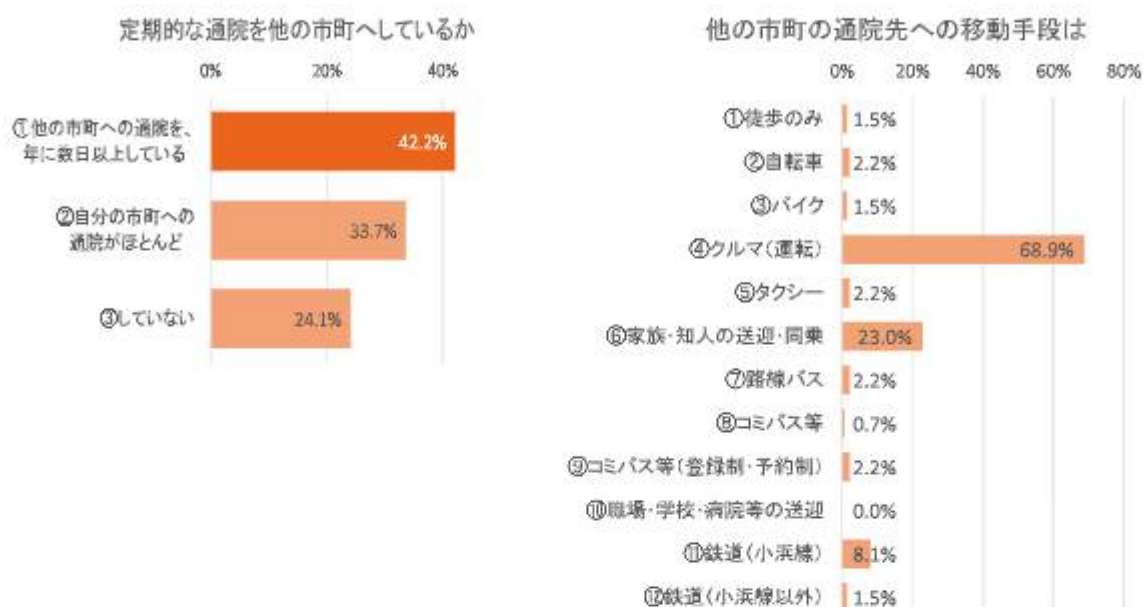


国勢調査より

*本書では、「クルマ」という言葉を、町民等の自家用車（マイカー）、社有車、レンタカーなど、公共交通を除くすべての自動車をあらわす意味で用いています。

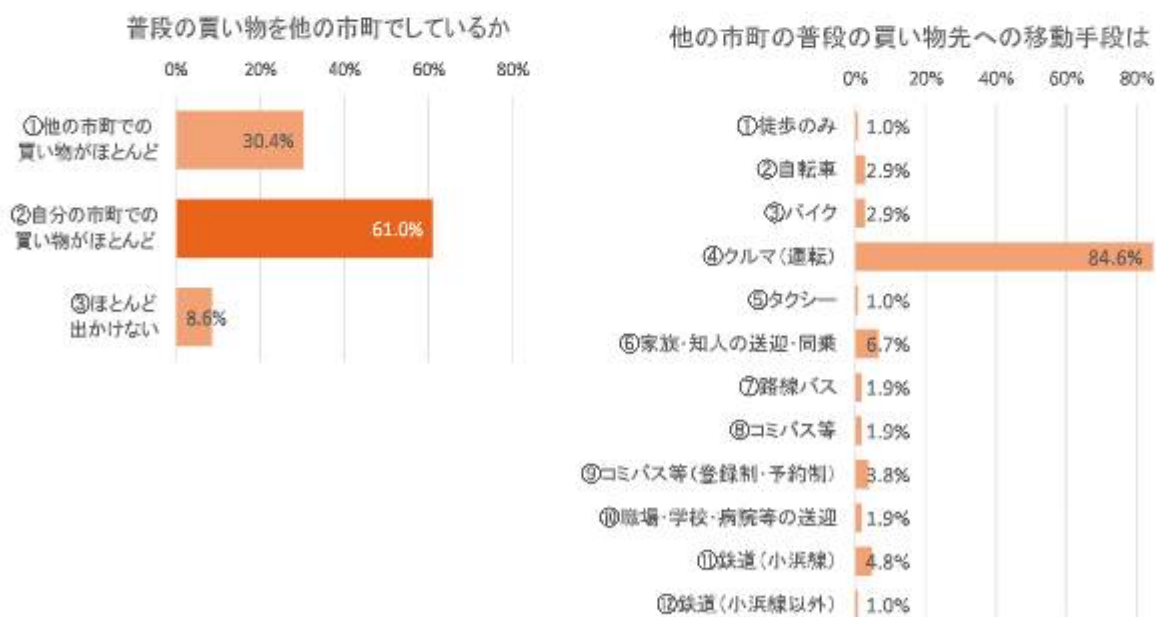
(3) 通院・買い物等

- 定期的な通院をしている町民は、敦賀市、小浜市など他市町の病院を利用する人が多くみられます。
- 町外へ通院する町民の多くが、クルマ（自分で運転、送迎・同乗）で通っている状況です。



嶺南地域公共交通アンケート(H30) より

- 普段の買い物は、町内で済ませる町民が多数を占めますが、敦賀市、小浜市等の他市町で買い物をする町民もいます。
- 町外で買い物をする際の交通手段も、クルマが大半を占めています。



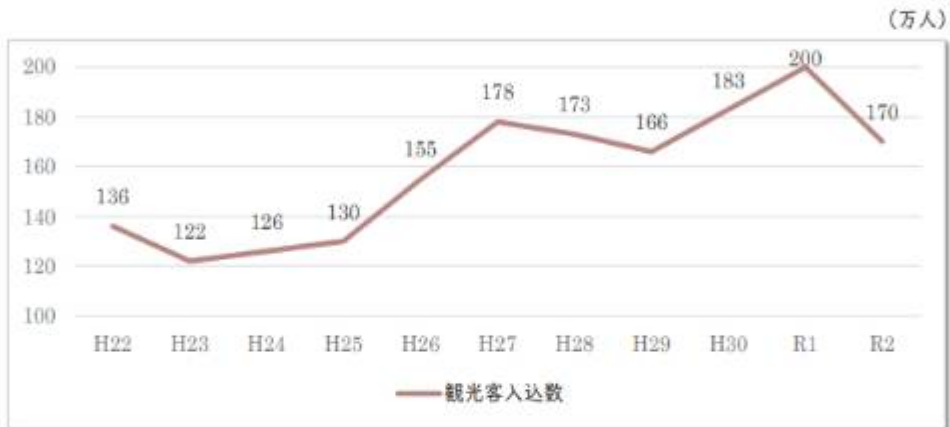
嶺南地域公共交通アンケート(H30) より

1-5. 観光客の状況

(1) 観光入込状況

- 本町の観光客数は増加傾向にありましたが、近年やや伸び悩みコロナ禍で落ち込んでいます。

若狭町観光入込客数



若狭町観光ビジョンより

(2) 観光客の交通手段

- 本町を含む若狭路の観光客は、クルマを利用する人が大半であり、9割近くがマイカー等で来訪しています。鉄道での来訪は少なく、観光バス・貸切バスのほうが多い状況です。

日帰り客



宿泊客

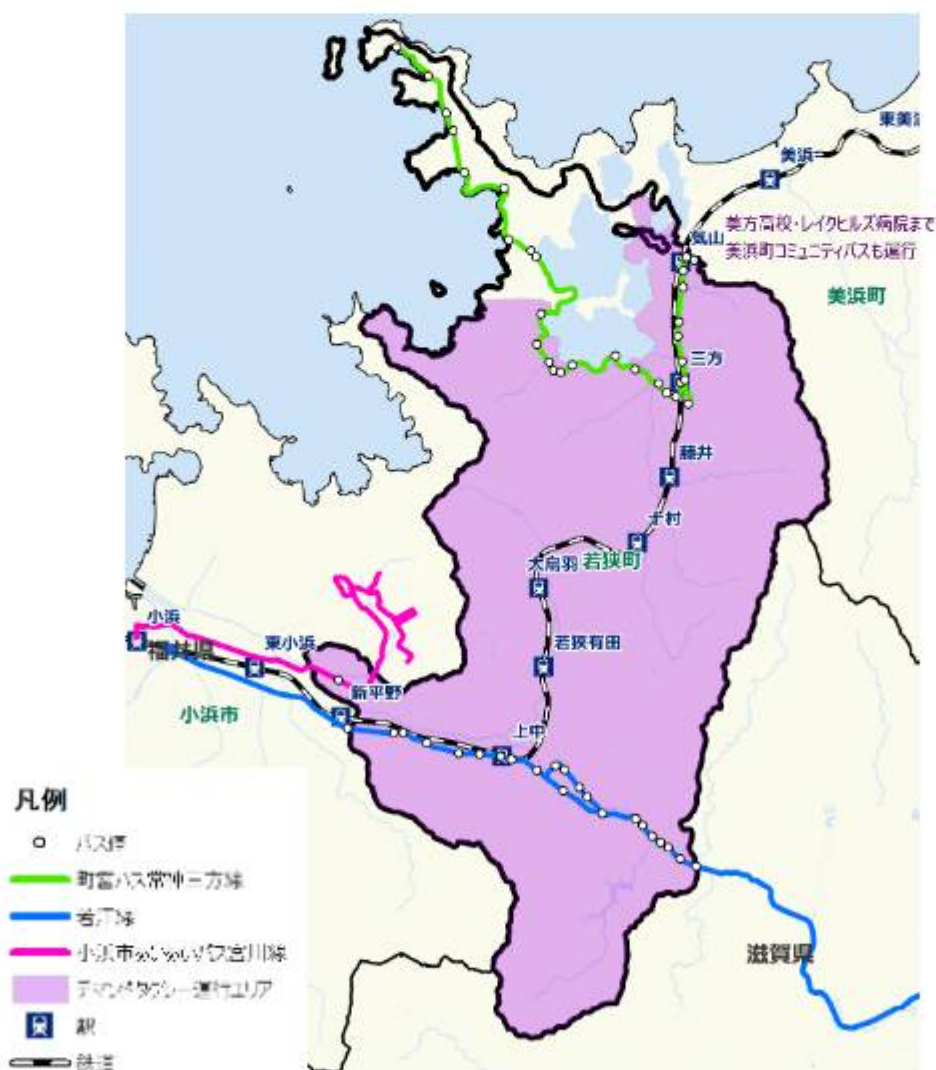


若狭路観光実態調査 (H24) より

2. 公共交通の現状

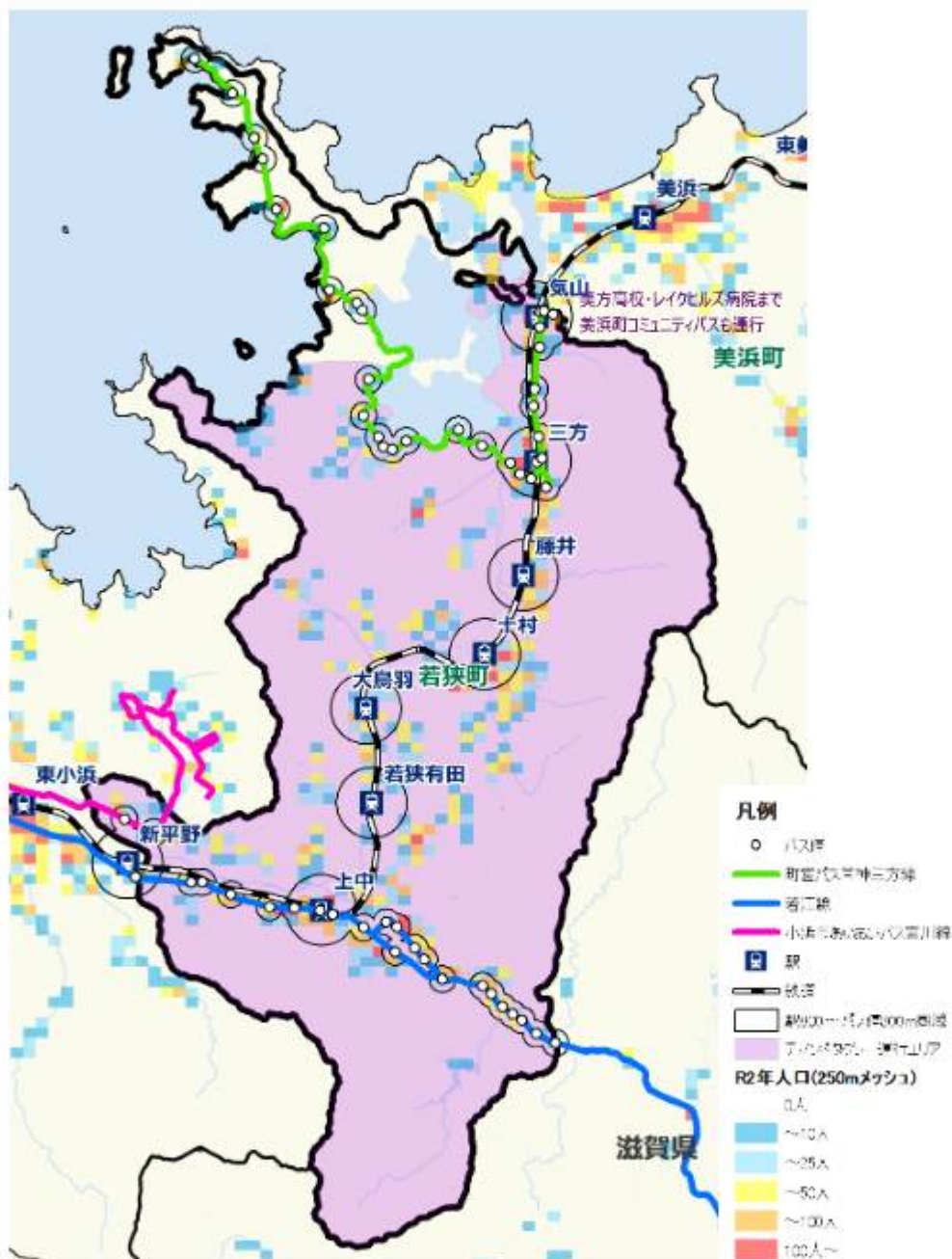
2-1. 公共交通ネットワークの概要

- 若狭町の公共交通ネットワークは、本町を東西に走り嶺南地域の市町をつなぐ基軸である「JR 小浜線」、小浜駅～上中駅～近江今津駅をつなぐ「若江線」（西日本 JR バス）に加え、本町内の北部を運行する町営バス「若狭町コミュニティバス（常神三方線）」、それ以外の全域をカバーする「わくわくタクシー（デマンドタクシー）」等で構成されています。
- その他、本町の一部に、小浜市あいあいバス、美浜町コミュニティバスが運行しています。
- 町内には7つの駅があり、中心駅である上中駅、三方駅にはバス等が発着しており、本町の公共交通ネットワークの構成は概成しています。



(公共交通の利用圏域の状況)

- 公共交通の利用圏域について、鉄道駅、路線バスのバス停の利用圏域は限られていますが、「わくわくタクシー（デマンドタクシー）」によって、町域のほとんどがカバーされています。

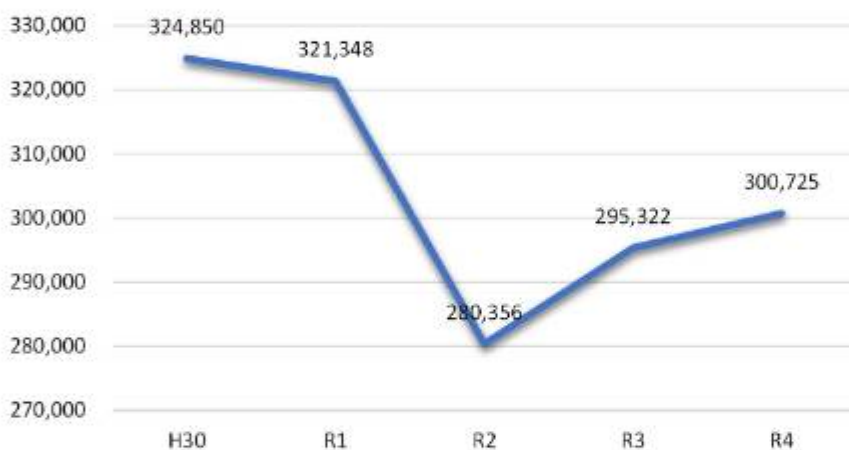


2-2. 公共交通の利用状況

(1) JR小浜線の状況

- JR小浜線の利用客数は、経年的に減少傾向にあります。コロナ禍で大きく落ち込みましたが、それ以前から減少は続いています。
- 駅別の1日平均乗車人員は、本町の中心駅である上中駅や三方駅でも1日250人以下であり、美方高校の最寄り駅である気山駅を下回っています。
- 本町の駅ではいずれも、定期外の利用客がほとんどいないのが現状です。

JR小浜線（町内駅乗車人員）



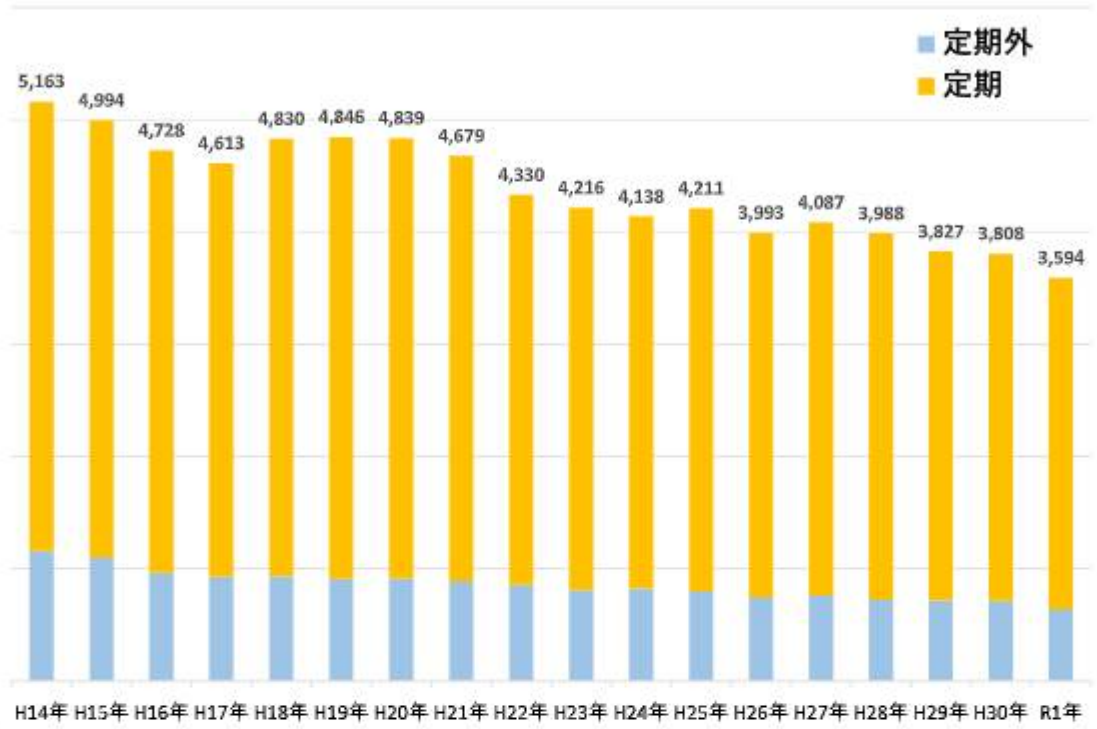
駅乗車人員（1日平均）



JR 西日本資料より



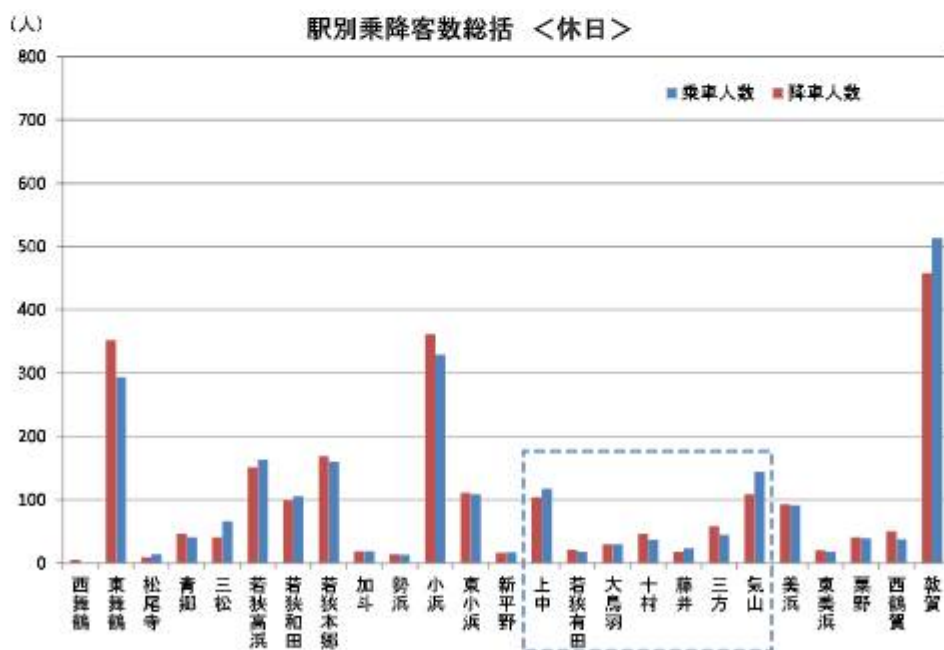
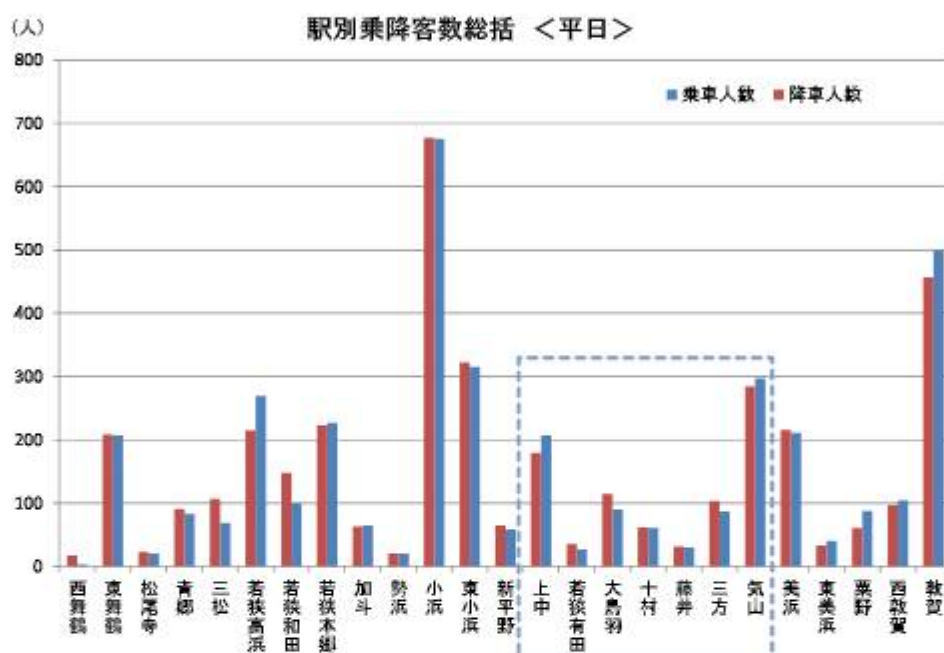
小浜線 1日平均乗車人員の推移



嶺南地域公共交通網形成計画・福井県統計年鑑 より

(参考：嶺南地域公共交通に関する調査（小浜線 OD 調査）より)

- 小浜線全体の駅別乗降客数は、平日では小浜駅が最も多く、次いで敦賀駅が多くなっており、上中駅を含め、その他の各町の中心駅は同程度の乗降客数です。
- 若狭町内の駅の平日・休日の違いに着目すると、高校等の授業のない休日は、平日の半分以下となっています。この傾向は、敦賀駅、東舞鶴駅を除き、大半の駅で同様です。

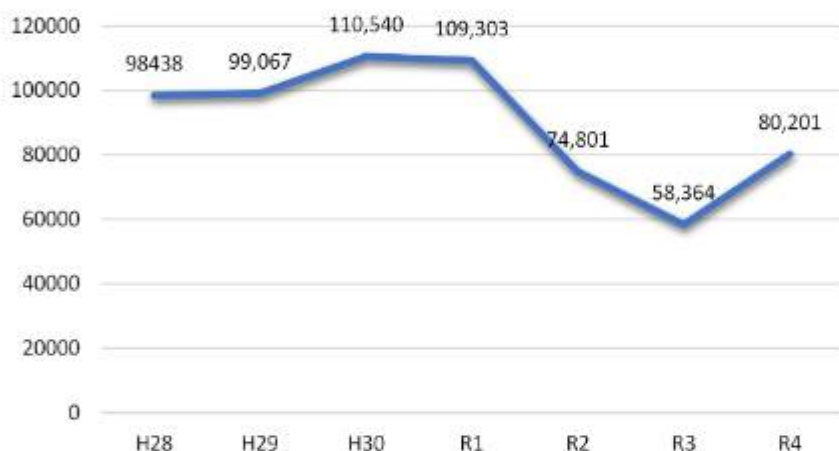


小浜線 OD 調査 (H30) より
(調査：八千代エンジニアリング(株))

(2) 路線バスの状況

- JRバス若江線の利用客数は、微増の傾向にありましたが、コロナ禍で大きく落ち込み、以前の状況にはもどっていない状況です。
- 若狭町コミュニティバス（常神三方線）の利用客数は、横ばいまたは微減の傾向でしたが、同様にコロナ禍で落ち込みました。現状では、若狭町コミュニティバスの利用客の多くを小中学生が占めています。

西日本 JR バス（若江線）利用客数



西日本 JR バス資料より



西日本 JR バス若江線

若狭町コミュニティバス利用客数



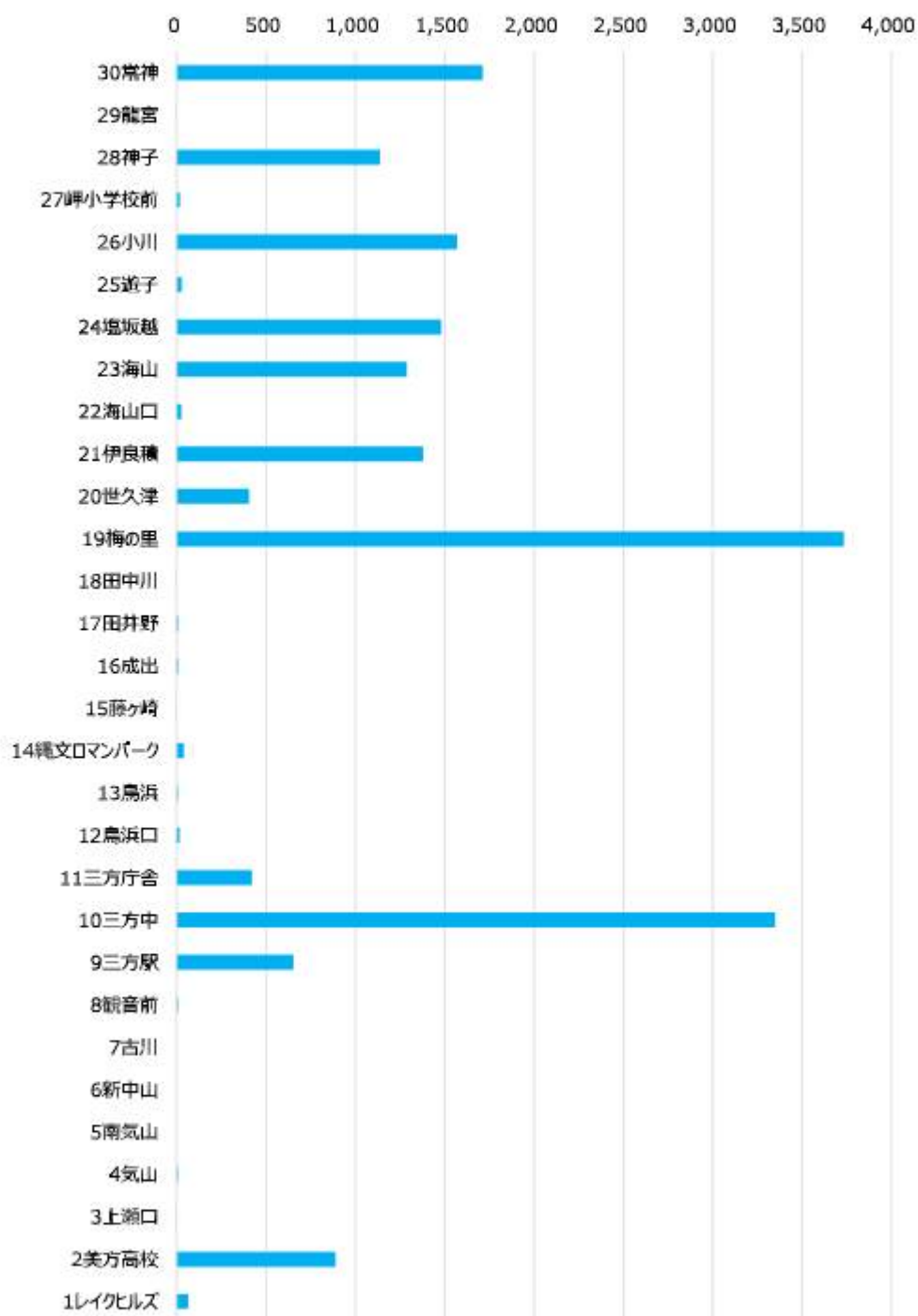
若狭町コミュニティバス
利用客の内訳 (R4 年度)



西日本JRバス（若江線）



若狭町コミュニティバス（常神三方線）乗車客数（R4 年度）



(3) わくわくタクシー（デマンドタクシー）の状況

- 町営のわくわくタクシー（デマンドタクシー）は、現在、約 1500 人が利用登録をしております、1 日当たりの利用客数は 9 人程度です。
- 現状では、店舗や医療施設へ出かける際の利用が多く、駅への利用は少なくなっています。また、乗合率（1 運行当たりの乗車人数）が低く、1 人での利用が多い状況です。



令和 4 年度の状況

- 登録者数 約 1500 人（ただし累積）
- 延べ利用客数 8911 人
（1 日あたり 9.2 人）
- 乗合率 1.21 人
- 月間の利用経験者数 平均 157 人

(参考：わくわくタクシー運行開始後の累計 (H27.9.1~R4.5.31))

1-1. 年代別登録数

年代	男性	女性	合計	割合
10代	20	12	32	2.1%
20代	4	7	11	0.7%
30代	15	12	27	1.8%
40代	17	14	31	2.1%
50代	28	26	54	3.6%
60代	35	91	126	8.4%
70代	131	370	501	33.3%
80代	214	447	661	43.9%
90代~	28	35	63	4.2%
合計	492	1,014	1,506	

3. 乗車時間帯予約割合

時間帯	件	割合
7時台	11	0.0%
8時台	5,261	9.9%
9時台	8,962	15.1%
10時台	9,421	15.9%
11時台	9,434	15.9%
12時台	7,032	11.8%
13時台	5,396	9.1%
14時台	4,134	7.0%
15時台	4,414	7.4%
16時台	5,173	8.7%
17時以降	168	0.3%

1-2. 年代別登録数(R3年度分)

年代	男性	女性	合計	割合
10代	0	0	0	0.0%
20代	0	0	0	0.0%
30代	0	1	1	1.7%
40代	0	2	2	3.4%
50代	1	4	5	8.5%
60代	0	1	1	1.7%
70代	6	15	21	35.6%
80代	9	16	25	42.4%
90代~	3	1	4	6.8%
合計	19	40	59	

4. 希望と予約時間の差

時間	件	割合
- 60分以上	5	0.0%
- 60分以内	22	0.0%
- 50分以内	26	0.0%
- 40分以内	50	0.1%
- 30分以内	311	0.5%
- 20分以内	658	1.1%
- 10分以内	680	1.1%
- 05分以内	1,383	2.3%
0分	42,092	70.9%
+ 05分以内	2,797	4.7%
+ 10分以内	2,011	3.4%
+ 20分以内	2,305	3.9%
+ 30分以内	1,216	2.0%
+ 40分以内	401	0.7%
+ 50分以内	254	0.4%
+ 60分以上	2,450	4.1%

5. 事前予約状況

時間	件	割合
30分前	3,544	6.0%
1時間前	13,355	22.5%
2時間前	5,510	9.3%
3時間前	3,888	6.5%
4時間前	1,915	3.2%
5時間前	1,174	2.0%
6時間前	2,257	3.8%
1日前	15,166	25.5%
2日前	4,365	7.3%
3日前	3,269	5.5%
4日前	2,147	3.6%
5日前	1,090	1.8%
6日前	920	1.5%
7日前	806	1.4%

6. 降車利用数

降車場所	利用者数
1 PLANT2	5,817
2 上中診療所	4,129
3 レイクヒルズ	2,761
4 レビア	2,127
5 関根医院	2,041
6 千葉医院	1,880
7 バレア若狭	976
8 三方診療所	931
9 JR三方駅	800

3. まちづくりの上位・関連計画等

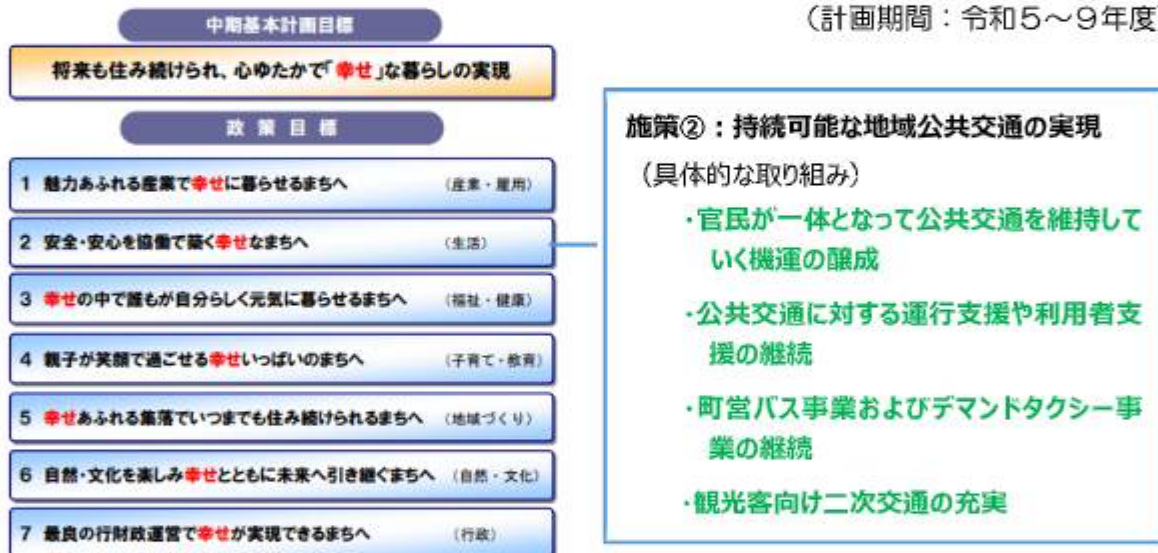
本町のまちづくりの最上位計画である総合計画のほか、公共交通や人の移動等にかかわる主な関連計画は、以下のとおりです。

《上位計画》

●第2次若狭町総合計画中期基本計画（まちづくりの最上位計画）

- 本町のまちづくりの最上位計画であり、中期基本計画における「政策目標2 安全・安心を共同で築く幸せなまちへ」の実現のための取り組み「情報と交通ネットワーク充実」の施策の一つとして、「持続可能な地域公共交通の実現」を掲げています。具体的には、「官民が一体となって公共交通を維持していく機運の醸成」、「公共交通に対する運行支援や利用者支援の継続」、「町営バス事業およびデマンドタクシー事業の継続」、「観光客向け二次交通の充実」に取り組むこととしています。

（計画期間：令和5～9年度）



●第2期若狭町総合戦略、若狭町人口ビジョン

- 国、県のまち・ひと・しごと創生総合戦略と連動する計画であり、「基本目標Ⅳ若い世代が住みたくなる地域をつくる」の具体的な施策として、「生活をつなぐネットワーク」の取り組みを挙げています。（計画期間：令和2～6年度）

基本目標

- 活力を育む交流を拡大する
- 次世代の活動環境を創造する
- 地域の力を高める
- 若い世代が住みたくなる地域をつくる
- わかさの資源で産業を元気にする

(イ) 生活をつなぐネットワーク

② 拡がる交通ネットワーク

- 2次交通の整備による観光誘客促進施策を検討、小浜線のさらなる充実
- デマンドタクシーの継続運行、施設アクセスの充実
- 町営バス常神三方線の運行方法の検討

《主な関連計画》

●若狭町高齢者福祉計画第8期介護保険事業計画

- ・高齢者福祉サービスの施策の方向の一つとして、「公共交通の充実」（地域の実情に沿ってタクシーチケットの拡充等、福祉・教育関係も含めた運行事業の最適化）、「地域住民同士の自主的な外出支援の推進」（活動の支援）を挙げています。
- ・なお、外出が困難な方や一般の交通機関の利用が困難な方の支援に関しては、公共交通とは別途、リフト付き車両等による「移送サービス」をすることとしています。

（計画期間：令和3～5年度：令和22年を見据える）

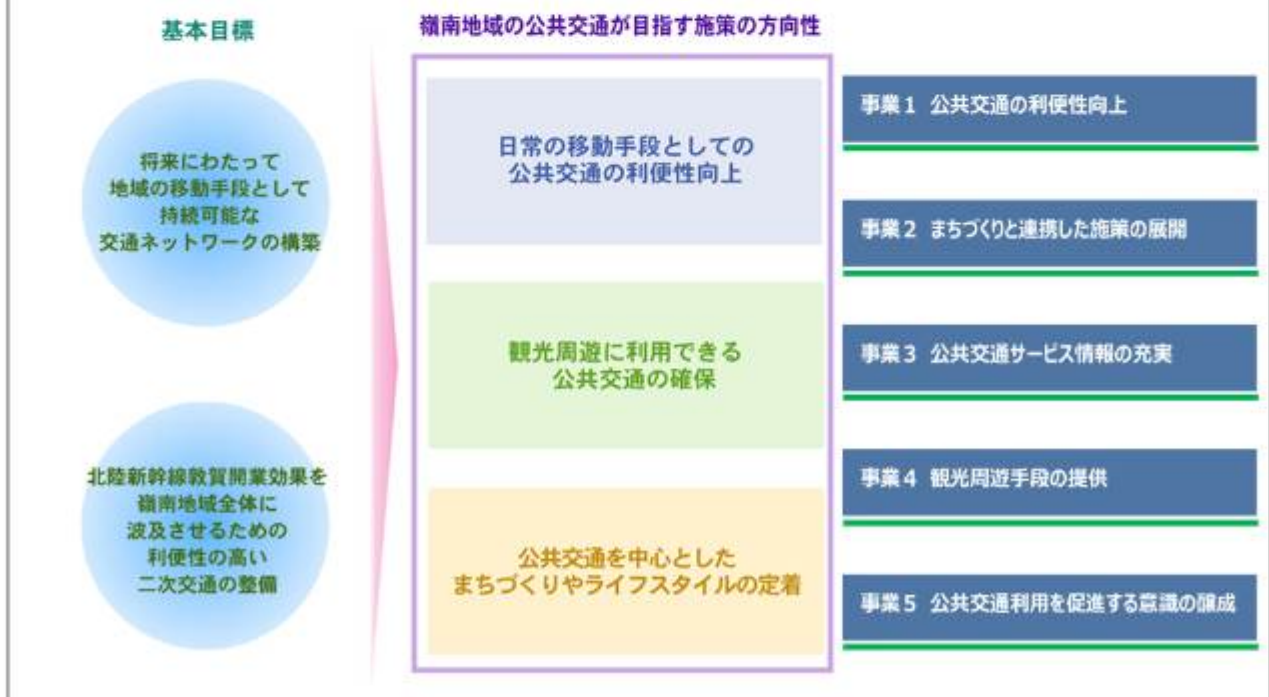
●第3次若狭町観光振興ビジョン

- ・「来訪者へ“ほんもの”の魅力を伝える」アクションプランの一つとして「敦賀駅から観光地へのアクセスの向上（広域バスの運行、三方五湖エリアと熊川エリアを結ぶ周遊バス）」、「超小型モビリティやレンタサイクルの利用促進」、「環境にやさしい周遊を応援」を挙げています。（計画期間：令和3～7年度）

《県の計画等》

●嶺南地域公共交通網形成計画

- ・嶺南地域公共交通網形成計画は、地域全体の公共交通に関する今後の目標や取り組みの方向性を示した計画であり、「日常の移動手段としての公共交通の利便性向上」、「観光周遊に利用できる公共交通の確保」、「公共交通を中心としたまちづくりやライフスタイルの定着」を施策の方向性として掲げ、将来まで持続する公共交通の実現をめざしています。（計画期間：令和2～6年度）



●福井県長期ビジョン

- ・「安心のふくいを未来につなぎ、もっと挑戦！もっとおもしろく！」を基本理念とし、「100年に一度のまちづくり」で「北陸新幹線敦賀駅開業」の効果の嶺南各地への波及をめざしており、**県内公共交通機関の利便性向上、MaaSによる主要交通拠点と観光地のネットワーク化の推進、二次交通の利便性向上の推進**を掲げています。(計画期間：令和2～22年度(将来構想：目標年次2040年))

●FIRST291～北陸新幹線開業プラン～

- ・「**旅行インフラの充実**」として、新幹線駅から人気観光地への直行バスや周遊バスの拡充、公共交通のダイヤやルート等のスマートフォン等によるスムーズな検索、鉄道やバス、タクシー、レンタカー、レンタサイクル等の交通サービスを一括検索・予約・決済が可能とすることを取り組みとして挙げています。

●福井県高速交通開通アクションプログラム

- ・「**地域交通ネットワークの強化**」の一つとして、新幹線駅の拠点機能強化と地域公共交通の革新に取り組むこととしています。

●ふくい観光ビジョン

- ・「**交通アクセスの向上**」の取り組みとして、公共交通機関の経路検索がスマートフォンで行えるようダイヤやルート等をオープンデータ化、新幹線駅を起点とした周遊ルートの交通手段の充実、公共交通機関のキャッシュレス化、共通フリー切符、観光型MaaS等を挙げています。(計画期間：令和2～6年度)



Ⅲ 町民等の外出状況・意識等



町民の外出や利用交通手段の状況、今後に向けた意識等を把握するため、令和4年度にアンケートを行いました。結果の概要は以下の通りです。

1. 町民へのアンケート

1-1. 調査の概要

■調査対象

- ・若狭町民 1500 名を無作為抽出

■調査期間

- ・令和4年8月

■調査方法

- ・郵送配布
- ・郵送回収または回答用 URL から WEB で回答

(また、郵送配布とは別に、同じアンケート内容で、若狭町ホームページ、三方駅、上中駅、三方庁舎、上中庁舎、町営バス、デマンドタクシーでも公開 WEB アンケートの調査案内を掲載した。)

■回答者数

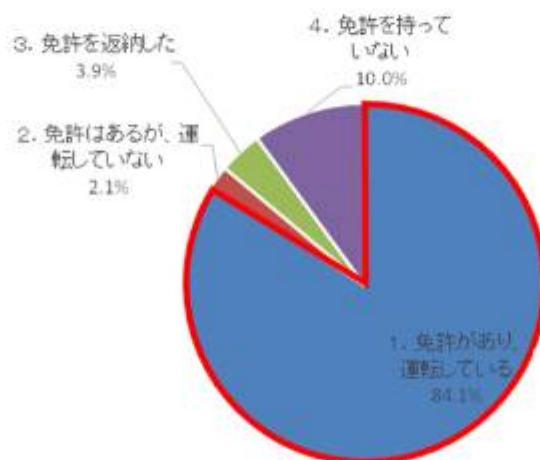
	紙返信	WEB 返信	計
①アンケート対象者 (郵送配布 1500 人)	604	174	778(51.9%)
②公開 WEB アンケート	—	32	32
計	604	206	810

1-2. 主な調査結果

アンケート対象者（郵送配布）の主な回答結果を以下に示します。

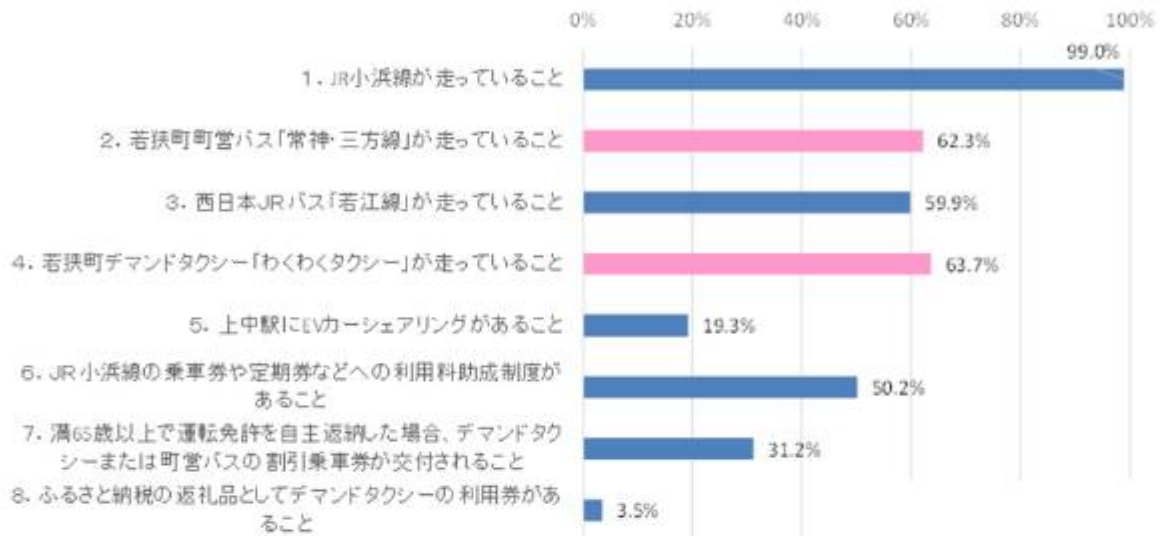
(1) 回答者の状況

- このアンケートでは、回答者の4割以上を65歳の高齢者が占めています。
- また、8割以上が、運転免許があり運転している回答者です。



(2) 公共交通の認知状況

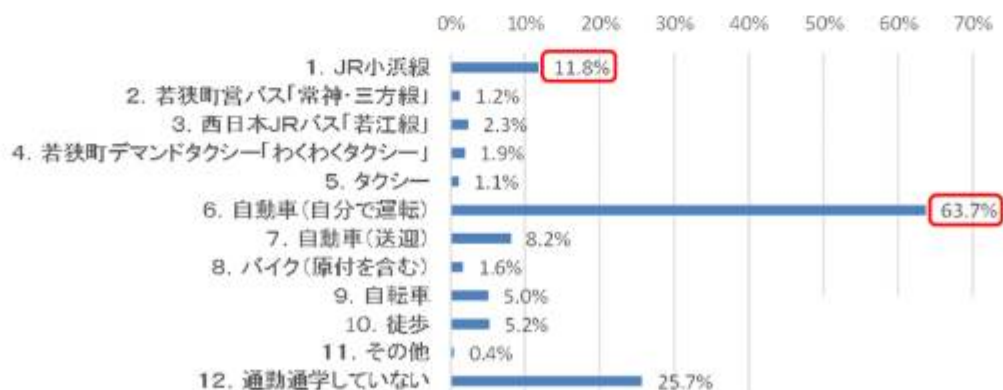
- JR小浜線のことは、ほぼ回答者全員が認知しています。
- 町営バス常神三方線（若狭町コミュニティバス）、JRバス若江線、デマンドタクシー（わくわくタクシー）の認知度は、6割前後にとどまっています（年代別で70歳代以上でも、2～3割程度の人知らない状況です）。



(3) 外出での主な交通手段

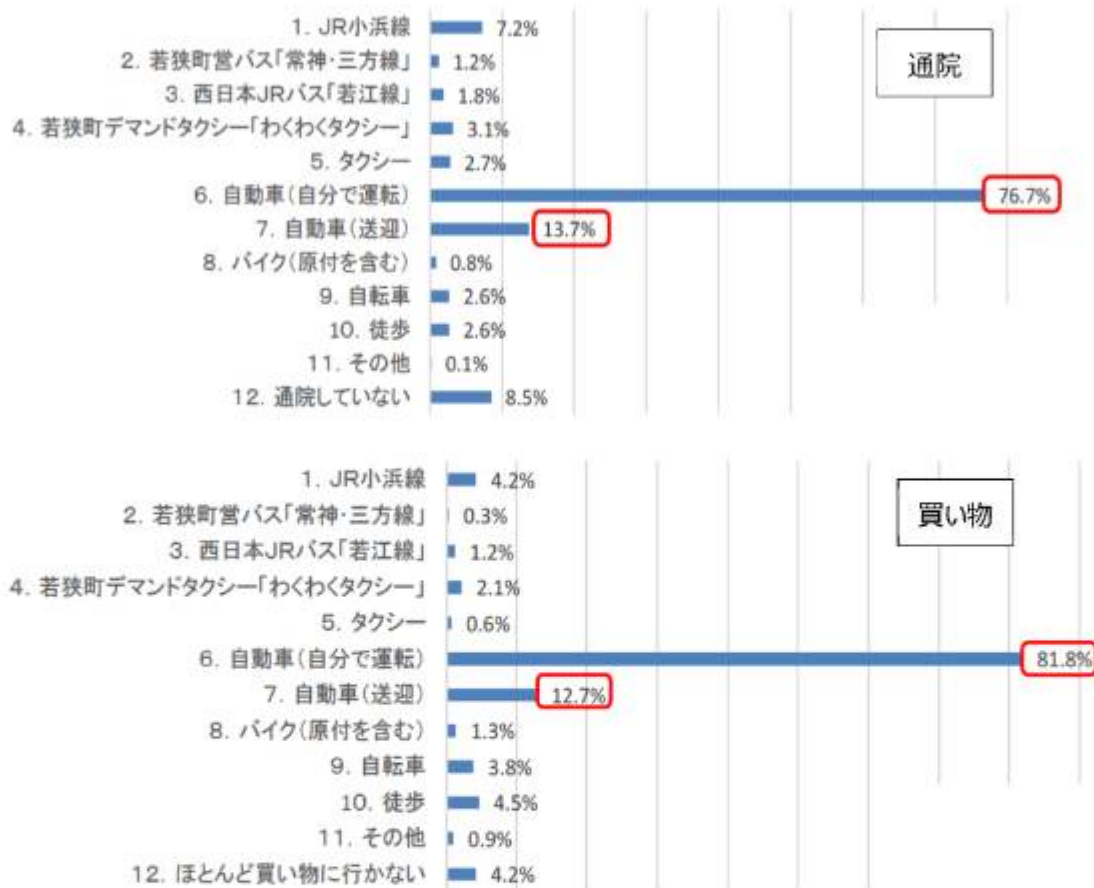
・通勤・通学

- 通勤・通学では、クルマで通う人が突出して多い状況です。
- JR小浜線を使う人は1割程度です（利用が多いのは10歳代です）。また、バスの利用はきわめて少ない状況です。



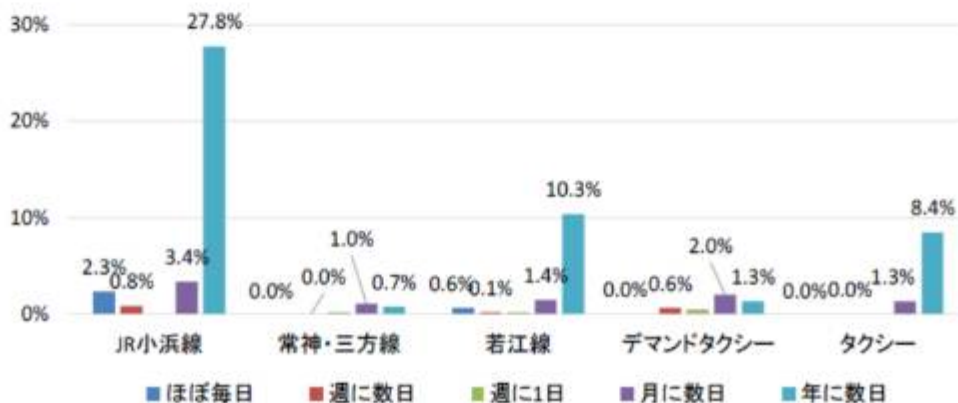
・通院、買い物

- 通院や買い物でも、クルマ（自分で運転、送迎）を使う人が突出して多い状況です。
- JR 小浜線を利用する人が若干いますが、バスを利用する人はほとんどいない状況です。
（70 歳代以上でも、クルマ利用が中心であり、通院で JR 小浜線、わくわくタクシーの利用が 1 割強見られますが、買い物で公共交通はあまり利用されていません。）



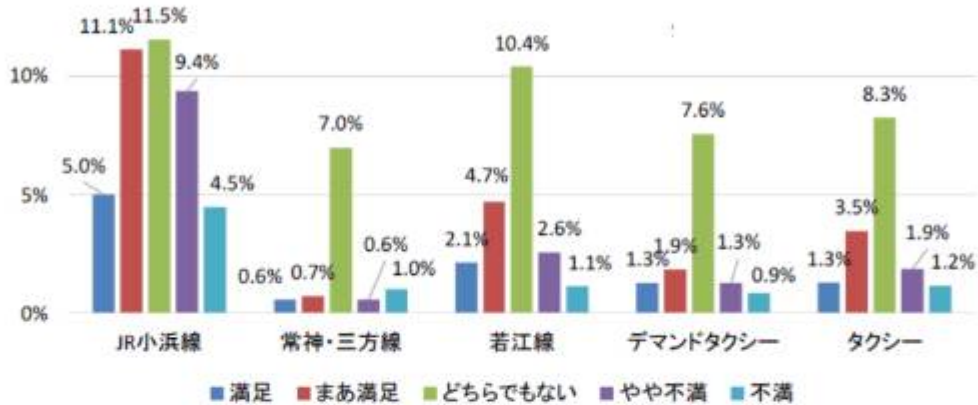
(4) 公共交通の利用頻度

- 公共交通の利用頻度は、全体として低く、利用していない回答者が JR 小浜線で約 7 割、バス、タクシー等は約 9 割を占めている状況です。



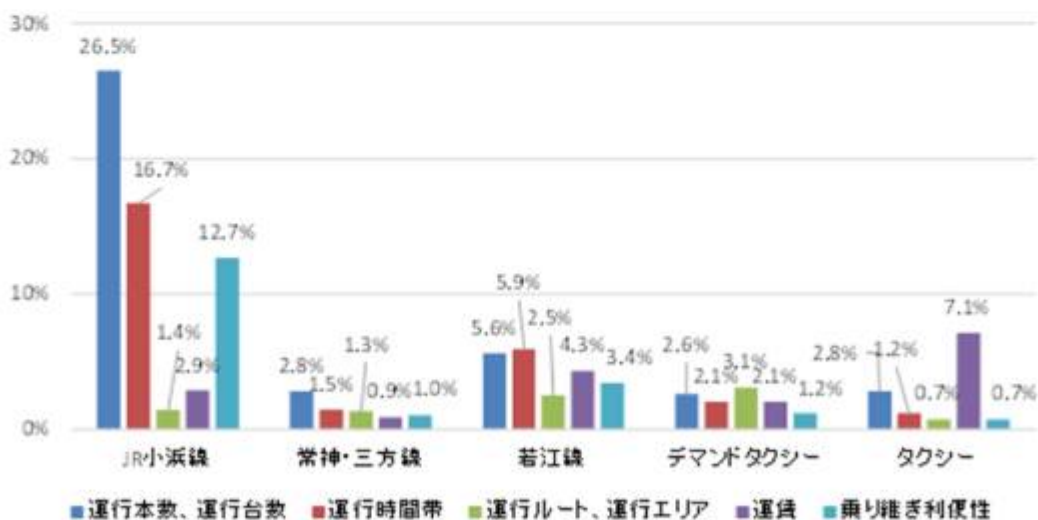
(5) 公共交通に対する満足状況

- 公共交通に対する満足度について、回答した人の中では、満足な人が、不満な人を若干上まわっています。（ただしJR小浜線以外は、利用していないため答えられなかった人が多数を占めている状況です。）



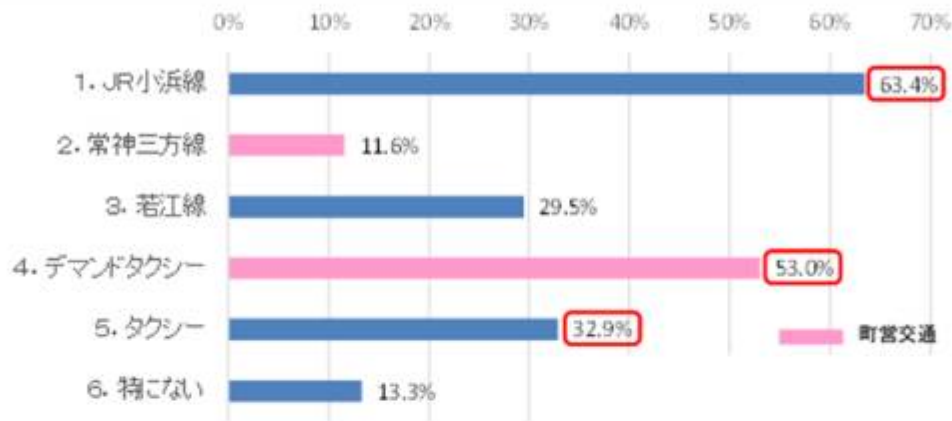
(6) 公共交通への改善の希望

- 改善の希望は、JR小浜線に対する事項が多く、運行本数、時間帯、乗り継ぎなどのダイヤに関する項目が多くなっています。
- JRバス若江線に関する項目の中では、ダイヤのほか運賃に関する改善希望もあります。タクシーに関する項目の中では、運賃に関する改善希望が比較的多くなっています。（ただし、利用していないため答えられなかった人が多数を占めている状況です。）



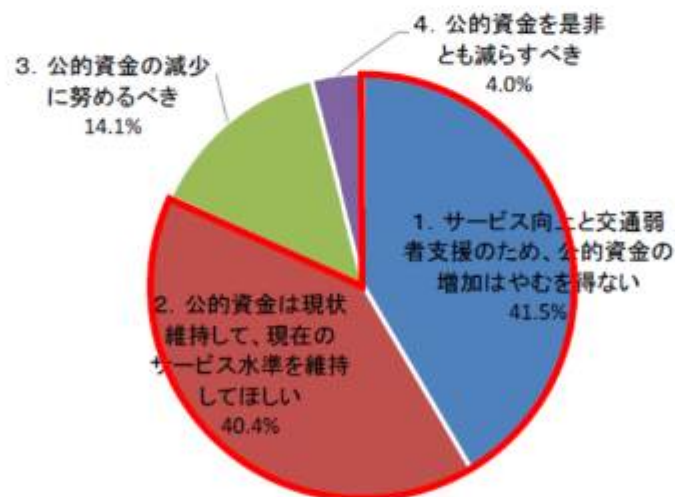
(7) 今後利用していきたい公共交通

- (クルマを使えなくなった場合などに) 今後利用していきたい公共交通は、JR小浜線、デマンドタクシー(わくわくタクシー)、一般のタクシーの順で多くなっています。



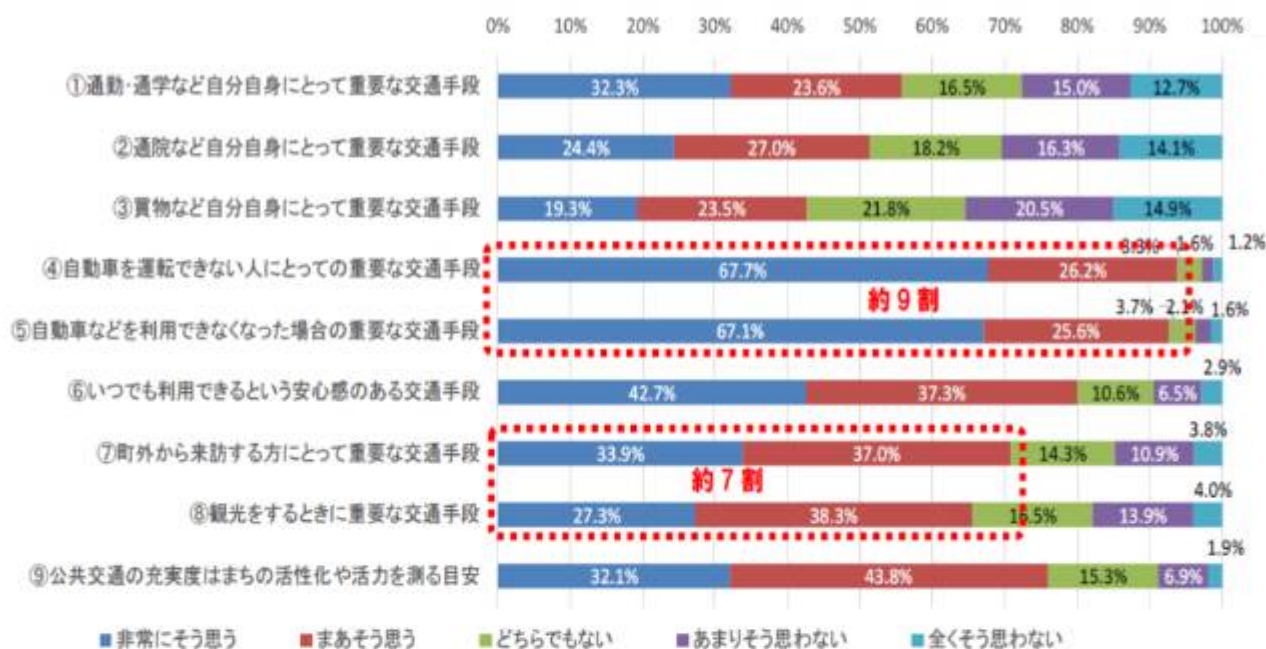
(8) 町による運行費用の補てんについての考え

- 町による運行費用の補てんについては、サービス向上・交通弱者支援のために増加を望む人、現状維持を望む人が同程度で多くなっています。



(9) 公共交通の役割・存在価値に関する考え

- 町の公共交通の役割・存在価値については、「運転できない人のもの」と考える人が、きわめて多いのが現状です。また、来訪者の手段と考える人も多くなっています。



2. 運行エリアの居住者へのアンケート

2-1. 調査の概要

■調査対象

- ・町営バス常神三方線（若狭町コミュニティバス）の運行エリアである西田地区を対象とし、居住者 140 人を無作為抽出

■調査期間

- ・令和 4 年 10～11 月

■調査方法

- ・郵送配布
- ・郵送回収または回答用 URL から WEB で回答

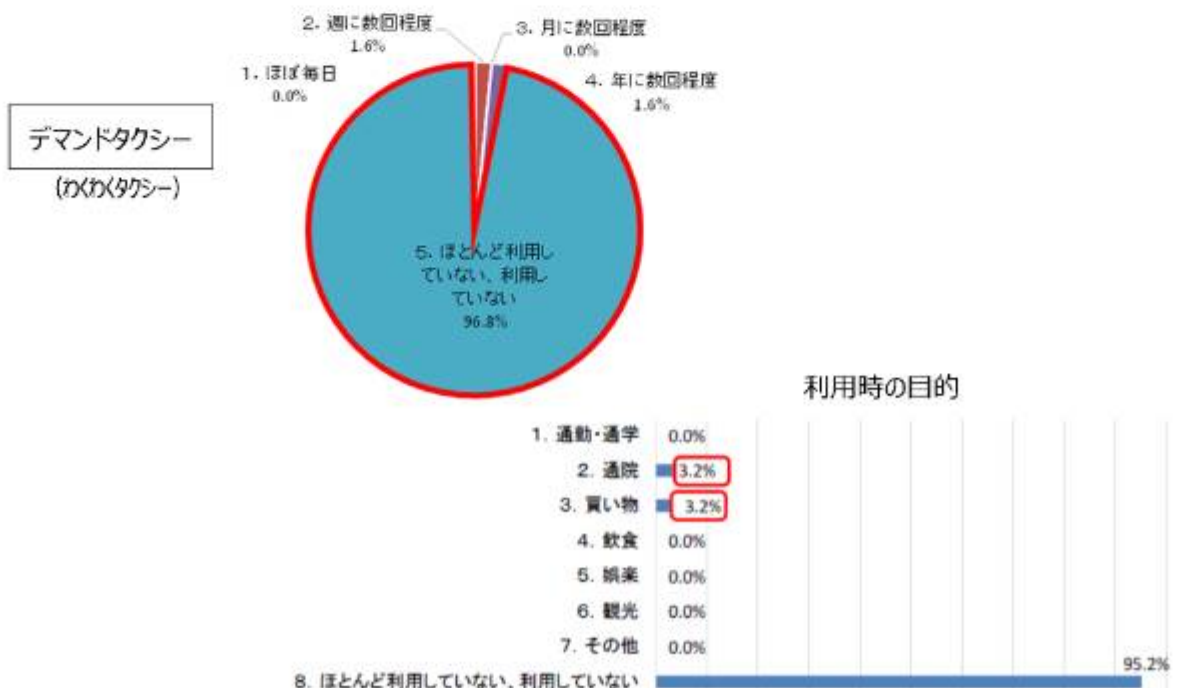
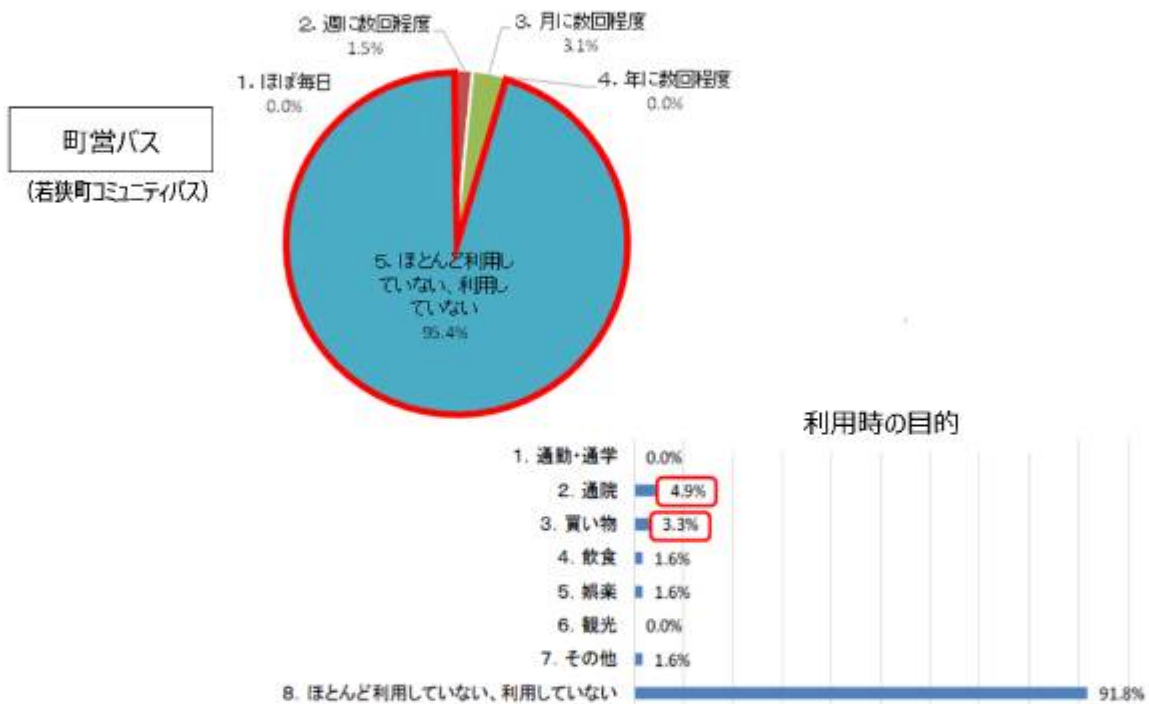
■回答者数

	紙返信	WEB 返信	計
①アンケート対象者 (郵送配布 140 人)	51	14	65(46%)

2-2. 主な調査結果

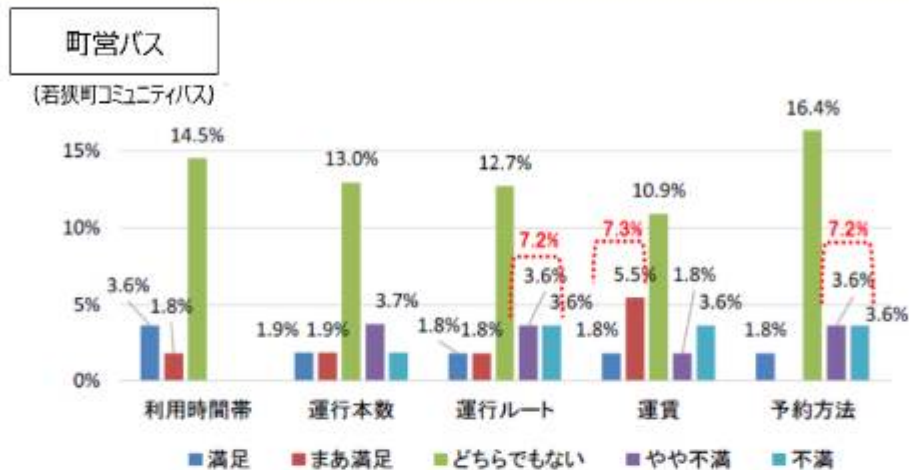
(1) 公共交通の利用状況

- 運行エリアに住む町民でも、町営バスはほとんど使われていない状況です。利用する人の外出目的は、通院、買い物が比較的多くなっています。

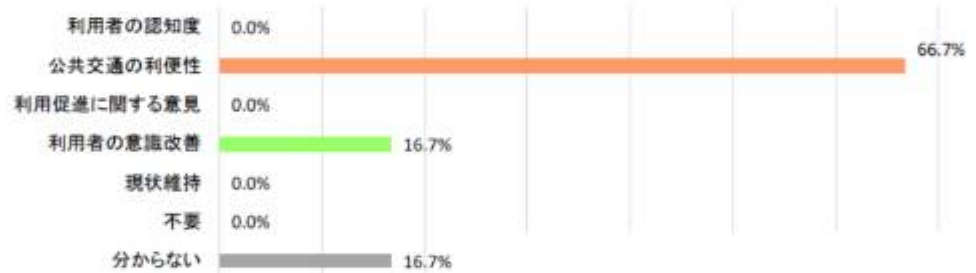


(2) 町営バスに対する満足状況

- 町営バスを利用する人のうち、不満な人の理由は、利便性が大半となっています。
(ただし町営バスを利用していないため、満足かどうかを答えられなかった人が7~8割を占めています。)

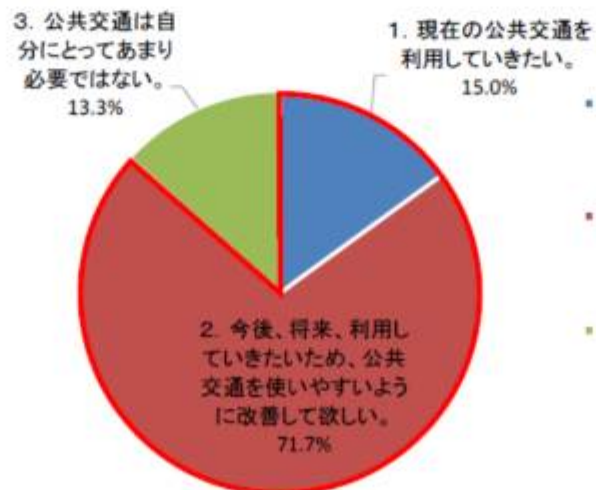


不満な人の理由



(3) 公共交通の存続についての考え

- 公共交通の存続について、多くの回答者が、公共交通は将来に利用するものという考えとなっています。





今後に向けた課題



1. 若狭町の地域・公共交通の現状・問題等の要点

基礎情報の整理、町民へのアンケートの結果およびヒアリングなどで得られた運行事業者、関係者からの情報・意見から、本町の地域および公共交通の現状・問題等の要点は以下のよう
に整理されます。

《人口等の状況》

- 本町では、人口減少、少子・高齢化が進んでいます。高齢者人口は増加しており、令和2年の高齢化率は4割近くとなっています。一方、世帯数は大きくは減少しておらず、その結果、世帯当たりの人数が減少しています。
- 本町の人口は、三方駅、上中駅の付近に集まっているものの、町域に広く分布しています。一人暮らしの高齢者等も、広く分布している状況です。

《施設等の立地状況》

- 町内にスーパーやドラッグストアが立地しています。ただし店舗数は限られており、売っていないもの等の買い物で町外（敦賀市、小浜市等）に立地する大型店やショッピングセンターへ出かける町民もいます。
- 町内に、複数の病院、診療所が立地しています（レイクヒルズ病院は美浜町との町境付近）。町外（敦賀市、小浜市等）に立地する総合病院を利用する町民もいます。
- 美方高等学校が、若狭町との町境にあります。それ以外の嶺南地域の高校は、敦賀市や小浜市等に立地しています。

《公共交通の現状》

- 公共交通の利用客は、コロナ禍で大きく落ち込みましたが、それ以前から、減少傾向が続いています。
- 若狭町コミュニティバス（町営バス常神三方線）は、乗降客の多い停留所と、ほとんどない停留所があり、駅に行く人は少数派です。利用客の8割を小中学生が占めています。
- わくわくタクシー（デマンドタクシー）は、約1500人が登録していますが、70代以上が8割を占めています。行先は、店舗、診療所が多く、駅に行く人は少数です。
- JR 小浜線も利用客が減少しています。三方駅や上中駅より、近くに美方高等学校のある気山駅のほうが多い状況です。平日と比べ休日の利用客数は大きく減少します。

- バス、タクシーの運行事業者は、全国的に乗務員不足が深刻になっています。さらに 2024 年の労働基準の改定で、運営面はますます厳しくなるものと想定されます。

《町民へのアンケート結果より》

町民アンケートより

- 回答者のうち、免許があり運転している人は 8 割以上を占めます。
- 公共交通の認知度は、小浜線はほぼ全員が知っていますが、町営バス常神三方線（若狭町コミュニティバス）、JR バス若江線、デマンドタクシー（わくわくタクシー）の認知度は 6 割前後です。
- 「通勤・通学」では、クルマで通う人が突出して多くなっています。JR 小浜線を使う人が 1 割程度いますが、利用が多いのは 10 代です。バスの利用は僅少です。
- 「通院」、「買い物」でも、クルマ（自分で運転、送迎）が突出して多くなっています。JR 小浜線の利用が若干ある状況で、バスの利用はほとんどありません。
- 公共交通の利用頻度は低く、利用していない町民が JR 小浜線で約 7 割、バス、タクシー等は約 9 割いる状況です。
- 改善の希望は、小浜線が多く、運行本数、時間帯、乗り継ぎなどダイヤに関する項目が多くなっています。若江線に関する回答の中では、ダイヤのほか運賃に関する改善希望もありません。タクシーに関する回答の中では、運賃に関する改善希望が多くなっています。
- 今後利用していきたい公共交通は、小浜線、デマンドタクシー、一般タクシーの順で多くなっています。
- 町による運行費用の補てんについて、サービス向上・交通弱者支援のため増加を望む人、現状維持を望む人が同程度です。
- 町の公共交通を、「運転できない人のもの」と考える町民がきわめて多く、来訪者の手段と考える町民も多くなっています。

運行エリアの居住者へのアンケートより

- 運行エリアに住む町民でも、町営バス、デマンドタクシーはほとんど使われていません。利用する人の外出目的は、通院、買い物です。
- 利用している人のうち、町営バスに不満な人の理由は、利便性が大半です。
- 多くの人が、公共交通は将来に利用するものとの考えです。

《その他の調査等より》

- 通勤・通学の動きは、町内に通う町民が多数を占めています。町外では、敦賀市、敦賀市に通う人が多くなっています。旧上中から小浜市へ、旧三方から敦賀へ通う人が多い傾向があります。通勤・通学の交通手段は、クルマが突出して多くなっています。
- 町外に通院する町民が多く、行き先は敦賀市、小浜市が多くなっています。町外への通院の交通手段は、クルマ（自分で運転、送迎・同乗）が大半です。

- 町内でふだんの買い物をする人が多数を占めています。町外で買い物をする人は、敦賀市、小浜市が多くなっています。町外での買い物の交通手段は、クルマ（自分で運転、送迎・同乗）が大半です。
- 趣味・遊び、特別な買い物等は、多くの町民が敦賀市、小浜市に出かけています（交通手段はクルマが中心です）。
- 福井県の自動車の保有率は、全国の中でもトップクラスです。
- 若狭町の観光客数は伸び悩んでいます。現在のところ、嶺南地域を訪れる観光客の交通手段は、日帰り客・宿泊客ともクルマが大半です。

2. 今後に向けた着眼点・課題

本町の地域・公共交通の現状、町民の外出や利用交通手段の実態、意識等を踏まえ、公共交通に関する今後に向けた着眼点・課題として以下が挙げられます。

課題① 人口減少が見込まれるなか、地域の公共交通ネットワークを将来まで確保・持続することが必要。

- 本町の公共交通の利用客は、減少が続いている状況です。今後も人口減少が続く見通しであり、さらに運営が厳しくなる可能性があります。
- 加えて、乗務員不足・高齢化が全国的に深刻化しており、公共交通はきわめて厳しい運営状況となっています。
- そのような状況の中で、町民等の外出手段として、公共交通を将来にわたって確保・持続していくことが必要となります。

課題② 町民の日々の暮らしに使いやすい公共交通にし、活発な外出行動を支えていくことが必要。

- 居住地が町域に広がっているため、町内の店舗、病院・診療所等を利用するには徒歩以外の外出手段が必要です。また、立地する施設が限られており、日常的に嶺南地域の他市町へ出かける町民も多い状況です。
- 少子・高齢化が進展し、一人暮らしや高齢者夫婦だけの世帯が増える可能性もあり、公共交通が外出手段として、ますます重要になると考えられます。
- 高校生等にとっても公共交通は、通学だけでなく放課後・休日の大切な外出手段となっています。
- このような日々の暮らしの手段として、町民の実情を考えながら公共交通をなるべく使いやすくし、活発な外出を支えていくことが必要です。

課題③ これまで利用していなかった人にも、わかりやすく、やさしい公共交通にしていくことが必要。

- 高齢者等も含め公共交通をあまり使わない町民等が多い状況であり、今後は初めての人や不慣れな人の利用が増える可能性があります。
- 北陸新幹線敦賀駅開業等により多くの来訪客が本町を訪れることに期待されます。
- 本町には複数の公共交通が運行しているため、出かける前の公共交通全体の情報や、出かけた際の乗り場等の現地において、わかりやすさ、やさしさを充実し、利用に対する抵抗感を軽減していくことが必要です。

課題④ 少しずつでもクルマ中心の外出スタイルを見直し、使える時には使える方法で公共交通を利用するという意識への変容に取り組むことが必要。

- 本町ではクルマ中心の外出スタイルが定着してしまっており、公共交通を使える状況にあっても、クルマを使う人が大半であるものと見られます。
- 公共交通がクルマを利用できない人のものであると考える町民が多く、利用していないため、公共交通に満足かどうか判断できないという人も多いのが現状です。
- このような状況では、公共交通を確保・持続または充実しても、うまく利用されないことが危惧されるため、少しずつでも外出スタイル・意識の変容を促していくことが必要です。

課題⑤ 観光等での来訪、周遊・回遊等を通して、まちのにぎわいに貢献する方策を模索していくことが必要。

- 本町には、若狭湾、三方五湖、熊川宿をはじめとする観光資源が豊富にあります。
- 北陸新幹線敦賀駅開業等により多くの来訪客が本町を訪れることに期待されます。
- これらの利点と好機を、まちのにぎわいにつなげていくため、公共交通は、本町への来訪手段、周遊・回遊手段として貢献することが求められるため、その方策を模索していく必要があります。



若狭町の公共交通がめざす姿と方向性

本町の課題と将来に向けたまちづくりを踏まえ、以下を若狭町の地域公共交通がめざす姿（基本理念）及び今後の取り組みの方向性（基本方針）とします。



若狭町の公共交通がめざす姿（基本理念）

これからも、ひと、まちをつなぎ、
心ゆたかで幸せな暮らし、
にぎわいあるまちづくりに貢献する
公共交通をめざします。

若狭町の公共交通は、これからも、ひと、まちをつなぐ日々の外出手段として、町民の心ゆたかで幸せな暮らし、住み続けたいくなるまちづくりに貢献していきます。また、高齢者や学生等だけでなく多くの町民に利用されるとともに、観光等での来訪や、周遊・回遊を通じ、にぎわいのあるまちづくりに貢献していきます。



今後の取り組みの方向性（基本方針）

めざす姿（基本理念）の実現に向け、本町の地域公共交通は、今後、5つの方向性（基本方針）に基づき、取り組んでいきます。

方向性1 地域に見合った公共交通を将来にわたり持続します。

- 若狭町の公共交通を将来にわたって持続し、日々の暮らしやまちづくりを支えていくことをめざします。
- そのため、町営の公共交通の持続的な運行、基軸となる鉄道、路線バスの日常的な利用客の確保、バス、タクシー等の効率的な運行・運用のための方策に取り組みます。

方向性2 日々のお出かけを便利にする工夫・調整をします。

- 各地域で暮らす町民が日々のお出かけで便利に使える公共交通サービスをめざします。
- そのため、可能な工夫・調整の方策を検討し、町内の外出の利便性向上のための運行・運用方法の充実、通学の利便性向上のための運行方法の調整、町外への外出手段の利便性向上に取り組みます。

方向性3 使ってみたくなる環境づくりをします。 (わかりやすさ・やさしさ)

- あまり使わない人や高齢者、町外からの来訪客等にもわかりやすく、人にやさしい公共交通をめざします。
- そのため、町の公共交通全体のわかりやすさの充実、乗り場（現地）での案内の充実、施設内の待合環境の充実、人にも地球にもやさしい車両の導入、福祉と連携した外出支援に取り組みます。

方向性4 クルマに依存しすぎた外出スタイルを見直し、少しずつでも、 公共交通を活かす意識を育みます。(利用・理解)

- 少しずつでも、ほぼクルマ（運転、送迎・同乗）しか使わない外出スタイルを見直すよう促すとともに、地域の公共交通のことを、地域で考え、使える時に使って守る意識を育むことにより、高齢者や学生等だけでなく、少しでも多くの町民が公共交通を使う状況をめざします。
- そのため、町民への広報PR、免許返納者へのサポート等に取り組むとともに、一人ひとりや地域が公共交通のことを「考える機会」を提供することにより、町民の意識の醸成に取り組みます。

方向性5 まちのにぎわい創出に貢献します。

- 本町には魅力的な観光資源があります。北陸新幹線の敦賀駅開業を迎え、多くの人々が本町に来訪し周遊・回遊することで、まちのにぎわいに貢献する公共交通をめざします。
- そのため、観光と公共交通が連携した企画の検討、観光資源を活かした周遊手段等の提供、来訪者の利便性の向上に取り組みます。






今後に向けた取り組み（事業）





1. 取り組み（事業）の体系

本町の公共交通は、「めざす姿」の実現に向けた「5つの方向性」にしたがい取り組んでいきます。今後の取り組み（事業）の体系は以下の通りであり、計画期間において検討・実施を順次進めていきます。



方向性1 地域に見合った公共交通を将来にわたり持続します。




-  取り組み 1-1 町営の公共交通の持続的な運行
-  取り組み 1-2 日常的な利用客の確保
-  取り組み 1-3 安定的・効率的な運用のための方策の検討・実施

方向性2 日々のお出かけを便利にする工夫・調整をします。

-  取り組み 2-1 町民の外出の利便性向上のための運行・運用方法の充実
-  取り組み 2-2 通学の利便性向上のための運行方法の調整






方向性3 使ってみたくなる環境づくりをします。 (わかりやすさ・やさしさ)

-  取り組み 3-1 町の公共交通全体のわかりやすさの充実
-  取り組み 3-2 乗り場（現地）での案内の充実

 取り組み 3-3	施設内の待合環境の充実
 取り組み 3-4	人にも地球にもやさしい車両の導入
 取り組み 3-5	福祉と連携した外出支援




方向性 4

クルマに依存しすぎた外出スタイルを見直し、少しずつでも、公共交通を活かす意識を育みます。(利用・理解)

 取り組み 4-1	町民への広報PR
 取り組み 4-2	免許返納者へのサポート
 取り組み 4-3	小浜線の利用促進活動
 取り組み 4-4	町民の利用意識の醸成 (モビリティ・マネジメントへの挑戦)
 取り組み 4-5	地域主体で考える機会の提供

方向性 5

まちのにぎわい創出に貢献します。

 取り組み 5-1	観光と公共交通が連携した企画
 取り組み 5-2	新幹線開業と観光資源を活かす周遊手段等の提供
 取り組み 5-3	その他、来訪者の利便性の向上

2. 各取り組み（事業）の内容

本計画の5つの方向性に基づいた取り組み（事業）の内容を以下に示します。

各取り組みは、計画期間（5年間）に、具体的な実施方法について関係者、運行事業者、町民等との意見交換や調整を行いながら検討し、必要に応じて実証運行・試行等をふまえた上で本格的な導入等を行います。

また、各取り組みについて、中心となる主体と、状況に応じて連携・協力が必要な主体等を示していますが、これに限らず、町民、利用客、運行事業者、行政や関係者等は、地域の公共交通のことを、ともに考え、ともに取り組む、積極的に利用するといった役割を担っていきます。

方向性1 地域に見合った公共交通を将来にわたり持続します。



取り組み
1-1

町営の公共交通の持続的な運行

利用客が少ない現状であり、今後の人口減少も見込まれる中ではありますが、町内の外出を担う町営の公共交通を持続的に運行することで、将来にわたり、町民の日々の暮らしやまちづくりを支えていきます。

取り組みの内容

- 若狭町コミュニティバス、わくわくタクシー等の町営の公共交通について、地域の状況に応じて、運行方法、運行形態等の部分的な調整や見直しを定期的に行うとともに、国（「地域公共交通確保維持事業」）、県（「生活バス路線維持対策事業」）の補助を活用しながら持続的に運行し、町内の各地区と駅、路線バス、施設等をつなぐ外出手段としての役割を担っていきます。

（*国・県の補助を活用した持続的な運行の詳細については P61 参照）

この取り組みの主体

若狭町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
●	○ (運行)	○ (補助等の関係機関)	○ (積極的な利用)

（●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力）

利用客が少なく厳しい運営状況にある中、本町の鉄道、バス等の運行を今後も持続できるようにするため、運行事業者、関係者が連携し、日常的な利用客（固定客）を確保するための取り組みを行います。

取り組みの内容

- 若狭町コミュニティバス、わくわくタクシーの日常的な利用客を確保するため、回数券、定期券の販売促進活動を一層強化します。
- 鉄道、路線バスの日常的な利用への支援として、町が行っているJR小浜線の定期券等の購入への補助（JR小浜線利用促進対策事業助成金）、JRバス若江線の回数券購入への補助（JRバス若江線利用促進対策事業助成金）を継続するとともに、町内の学校や地区の催し等でPR活動を行うなど、町が運行事業者と連携できる方策に取り組みます。

この取り組みの主体

若狭町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
●	○ (PR活動)	○ (学校、地区関係者)	○ (積極的な利用)

(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)

将来にわたって本町の公共交通を効率的・安定的に運用できるようにするため、町と運行事業者が連携しながら、乗務員の確保等の運営上の喫緊の問題に対処する方策や、運行事業者等の負担を軽減する方策について、安全面に十分留意しながら検討し取り組んでいきます。また、公共交通以外の手段も含め、地域の状況に応じて効率的に外出手段を確保する方策を検討します。

取り組みの内容

- 乗務員不足・高齢化をはじめとする運営上の問題を共有するため、町が呼びかけを行い今後も定期的にバス・タクシーの運行事業者による意見交換の場を設けます。各事業者が乗務員確保等の取り組みを継続的に行うとともに、町の広報媒体、I・Uターンキャンペーン等を活用した求人活動の支援や、女性乗務員雇用、二種免許取得、就職奨励等に関し町

が可能な支援策を検討します。また、嶺南地域公共交通協議会として地域が連携したイメージアップPR活動を行っていきます。

- 若狭町コミュニティバス、わくわくタクシーについては、効率化のため運行方法の見直しを定期的に行うとともに、コミュニティバスの利用について、デマンド型等の運行形態へ見直しの可能性を検討し、実証運行を行います。
- 若狭町コミュニティバスについては、登下校時間帯や休日・休暇期間の利用状況に応じたスクールバス運行の可能性を検討します。また企業や施設の送迎バス、輸送車両について町が情報収集を行った上で、町民の外出手段としての活用の可能性について検討します。
- 嶺南地域全体（福井県嶺南地域公共交通活性化協議会）として、公共交通の安定的な運行に向け、異常気象や災害発生時における運休等の情報の充実や代替交通手段の方策、JR 小浜線のダイヤ調整・補完等の調査・研究を継続的に行います。

この取り組みの主体

若狭町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
● (商業・学校・企業 関係部門と連携)	●	○ (店舗・関連団体) (学校、企業等) (●協議会)	

(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)

方向性 2 日々のお出かけを便利にする工夫・調整をします。

取り組み
2-1

町民の外出の利便性向上のための運行・運用方法の充実

町民等が、町内外の店舗、病院等へ、公共交通を使って便利に出かけられるようにするため、町内の公共交通の運行方法の工夫を行うとともに、店舗等の施設と連携した取り組みを行います。また、鉄道、路線バス、タクシー等を乗り継いで、町外へ便利に出かけられるようにするため、本町の複数の公共交通が連携した運行・運用方法を検討し取り組んでいきます。

取り組みの内容

(主に町内の外出について)

- 若狭町コミュニティバス、わくわくタクシー等について、町民のニーズを定期的に調査し、利便性向上のための見直しを行います。
- 若狭町コミュニティバスとわくわくタクシーの「乗り継ぎ割引券」を継続するとともに、町が店舗・関連団体等との意見交換を行い、公共交通を使って買い物等に出かけた人への割引・特典等の企画について可能性を検討し、有望なアイデアがある場合には試行等を行います。

この取り組みの主体

若狭町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
● (商業関係部門と連携)	○ (見直しへの提案) (企画・試行等への協力)	○ (店舗・関連団体)	

(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)

(主に町外への外出について)

- 公共交通を使った町外への外出の利便性向上を目的として、鉄道、バスの定期券・回数券購入への補助のほか、JR小浜線の利用（グループ旅行、シニア利用、成人式参加、小中学生団体利用、出張利用等）への補助やJR小浜線に乗り継ぐためのタクシー利用への補助（JR小浜線利用促進対策事業助成金）を継続し、町、運行事業者が連携して積極的にPRしていきます。
- 週末の帰りに使える若狭町コミュニティバス、わくわくタクシー等の遅い時間帯の便（週末特別便）など、町民が遠方へのお出かけに便利に使えるような方策について、必要に応じて実証運行等をふまえながら可能性を検討します。

- 町民等の利用ニーズを把握した上で、若狭町コミュニティバス、わくわくタクシーと、隣接市町の公共交通（小浜市あいあいバス、美浜町デマンド交通等）の乗り継ぎに関する調整を行います。
- 町内の地域の住民が中心となった、地域に見合ったお出かけサービス（例えばタクシーの相乗り、助け合いによる送迎等）について、可能性を検討します。主体的に取り組む地区が「試行等」を行うこととなった場合、町によるサポートを検討します。（*地区住民が中心となって「考える」取り組みへのサポートについては後述）

この取り組みの主体

若狭町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
●	● (PR 活動) (○企画・実証運行等の協力)	○ (隣接市町)	●

(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)

取り組み 2-2

通学の利便性向上のための運行方法の調整

町内の高校生や小学生等の通学での利便性を向上するとともに、学校の負担軽減にも寄与するため、公共交通やその他の手段を含めた方策について、関係者とともに検討・調整を行います。

取り組みの内容

- 美方高等学校のテスト期間等の短縮時間割、休日・夏休みの部活動等で使いやすい通学手段や、町内の小中学校の時間割に応じた通学手段になるようにするため、若狭町コミュニティバスの臨時便のほか、デマンド型の交通やタクシーによる補完、スクールバスの運行等も含めた方策について、町と学校関係者、運行事業者が調整し、状況に応じて実証運行をふまえながら検討します。

この取り組みの主体

若狭町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
● (学校関連部門と連携)	○ (試行等への協力)	○ (学校)	○ (意見交換、積極的な利用)

(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)

使ってみたくなる環境づくりをします。
(わかりやすさ・やさしさ)



町の公共交通全体のわかりやすさの充実

本町の公共交通について、運行状況をよく知らない人が少なくないことや、利用方法をわかりやすくすることを望む高齢者等の声があることから、出発前等に得られる町の公共交通全体の情報を充実し、利用に対する抵抗感の軽減に取り組みます。

取り組みの内容

- 本町を運行する若狭町コミュニティバス、わくわくタクシー、JR 小浜線、JRバス若江線を一つにまとめ、高齢者等にもわかりやすい簡潔な内容で表現した「公共交通マップ」を作成します。また、町の職員等が各地区に出向き、公共交通の使い方や、調べ方、予約の仕方等についての「出張説明会」等を行います。

この取り組みの主体

若狭町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
● (福祉関連部門と連携)	○ (情報の提供)	○ (自治会等)	

(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)



乗り場（現地）での案内の充実

本町への来訪者や、公共交通の利用に不慣れな町民等が、外出先の現地で迷うことなく利用できるようにするため、種々の工夫を行い乗り場での案内を充実します。

取り組みの内容

- 町が運行事業者と連携し、主な駅前、観光スポット等に、公共交通の総合案内を掲示する等の方策により、何に乗ればどこへ行けるか等の内容をわかりやすく示します。また、観光関係者と連携し、スタッフが周遊に便利な鉄道・バス等の案内のフォローをできるようにする方策についても検討します。

この取り組みの主体

若狭町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
● (観光関連部門と連携)	○ (情報の提供、相互の案内)	○ (観光関連団体等)	

(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)

取り組み 3-3

施設内の待合環境の充実

町内の主要駅や主な施設のバス停において、待ち時間が長い場合でも利用客が快適に過ごせるようにするため、施設内の待ち環境や、バス案内情報の充実に取り組みます。

取り組みの内容

- 鉄道やバス等の待ち時間を過ごせるように、町が主な駅舎内等の店舗、コワーキングルーム（電源、USB の設備等）を充実します。
- バスが到着する直前まで建物の中で待てるようにするため、駅、主な店舗・病院等の施設内に、時刻表を掲示することや、敷地内への若狭町コミュニティバス、わくわくタクシーの乗り入れについて、町がまだ取り組めていない施設の関係者に打診します。また、若狭町コミュニティバス、わくわくタクシーの「リアルタイム位置情報」の映像を WEB や、主な駅、店舗、病院等の待合室に設置した画面（簡易なタブレットやテレビ等）で見られるようにすることについて、可能性を検討します。

この取り組みの主体

若狭町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
● (施設関連部門と連携)	○ (運行情報の提供) (駅施設の協力)	○ (施設関係者)	

(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)

取り組み 3-4

人にも地球にもやさしい車両の導入

公共交通全体として、人にも地球にもやさしい利用環境を創出するため、車両の低エネルギー化や、車両、乗り場のユニバーサルデザインに取り組んでいきます。

取り組みの内容

- 若狭町コミュニティバス等の車両更新時に、低エネルギーの車両の導入を検討します。また、運行の安全、乗り降りの負担の軽減に配慮し、車両更新時のノンステップバスの導入や、駅、バス停等の施設のユニバーサルデザインについて、継続的に取り組んでいきます。

この取り組みの主体

若狭町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
● (地球環境・施設関連部門と連携)	○ (車両、施設等の連携)		

(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)

取り組み 3-5

福祉と連携した外出支援

高齢化が進むことで、乗合の公共交通の利用や、外出自体が難しい町民が増える可能性があります。本町全体としては、公共交通関係者と福祉等の関係者が連携や役割分担を行いながら、なるべく公共交通を利用していただけるようにする方策のほか、乗合の公共交通以外の送迎等で出かけていただく方策に取り組み、元気なお出かけを応援していきます。

取り組みの内容

- 町の福祉関連部門が現在行っている、高齢者、障がいのある人への外出の支援事業「おでかけ応援タクシーチケット事業（要介護老人等）」、「重度身体障がい者等タクシー料金助成事業」を継続します。
また、乗合の公共交通など一般の交通機関の利用が難しい人への「外出支援サービス事業」として、自宅と医療機関等との個別移送（介護タクシー）の利用に対する助成や予約のサポートを、福祉関連部門が継続するとともに、今後とも、公共交通の面だけでなく種々の取り組みを検討していきます。

この取り組みの主体

若狭町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
● (福祉関連部門)	○ (仕組みへの協力)	○ (介護タクシー事業者、 関連団体等)	

(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)

方向性 4

クルマに依存しすぎた外出スタイルを見直し、少しずつでも、公共交通を活かす意識を育みます。(利用・理解)



取り組み 4-1

町民への広報PR

本町では、公共交通を使える際にもほとんど利用しない町民が大半であるのが現状です。そのため、クルマしか使わない外出スタイルの見直しと、使える時に少しずつでも公共交通を使うことについて、広報PRで積極的に町民に呼びかけていきます。

取り組みの内容

- 町の広報媒体での記事の掲載、イベントでの出展等により、鉄道・バス・タクシー等の大切さと厳しい現状を町民に知っていただき、使える時に少しずつでも利用するよう継続的に呼びかけます。
- バス車内、駅等に児童の絵を展示する「お絵かき展」など、家族等と一緒に公共交通に親しめる催し等を企画します。

この取り組みの主体

若狭町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
● (広報・イベント、児童福祉 関連部門と連携)	○ (PR等の連携、 企画への協力)	○ (幼稚園等)	● (積極的な参加、 取り組みの理解)

(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)



取り組み 4-2

免許返納者へのサポート

高齢者等がクルマ中心の外出スタイルを見直し、安心して運転免許の返納を検討できるよう、公共交通を利用する機会の提供による動機付けを行っていきます。

取り組みの内容

- 運転免許証を返納した後の町民へのサポートとして、町の安全関連部門が行う「運転免許自主返納サポート制度」による公共交通利用料金の割引を継続するとともに、警察と連携して積極的にPRします。
- これから運転免許証の返納を検討する高齢者等へのサポートとして、返納前に、若狭町コミュニティバスやわくわくタクシーをお試しで利用できるようにする仕組み(割引制度等)について可能性を検討します。

この取り組みの主体

若狭町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
● (安全関連部門と連携)	○ (仕組みへの協力)	○ (警察)	● (積極的な利用)

(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)



取り組み
4-3

小浜線の利用促進活動

小浜線は、嶺南地域の市町間をつなぐ基軸となる公共交通であり、多くの人々が利用することで将来まで持続するよう、地域全体が連携した活動に継続的に取り組んでいきます。

取り組みの内容

- 小浜線利用促進協議会が行う「小浜線サポーター制度」など、嶺南地域全体としての継続的な利用促進活動に、町として積極的に参加していきます。

この取り組みの主体

若狭町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
○ (協議会会員として参加)	○ (協議会会員として参加)	● (小浜線利用促進協議会)	● (積極的な利用)

(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)



取り組み
4-4

町民の利用意識の醸成（モビリティ・マネジメントへの挑戦）

本町では、クルマ中心の外出スタイルとなっている町民が大半で、公共交通を使える際にもほとんど利用しない人が多いのが現状です。将来まで公共交通を持続するため、モビリティ・マネジメントの種々の取り組みを行い、「考える機会」を提供することにより、公共交通の大切さと厳しい運営状況の理解を促し、クルマしか使わない外出スタイルの見直しと、使える時に少しずつでも公共交通を利用する意識の醸成を図っていきます。

- *「モビリティ・マネジメント」：コミュニケーション施策を中心として、“知る機会”、“考える機会”、“体験する機会”を継続的に提供することにより、クルマ利用だけを考える状態から、公共交通や徒歩・自転車などクルマ以外を利用する状態へと、少しずつ自発的に、意識や行動が変わり、定着するように促す取り組み。

取り組みの内容

- クルマを運転しない年齢のうちに公共交通への意識を育むため、町が学校や地域のクラブ

活動、運行事業者と連携し、実際のバス等の車両を用いた「小学生等の乗り方教室」を行います。

また、町が学校、自治会、町内会等にPRを行い、行事、クラブ活動、地域の催し等に出かける際に公共交通を利用していただけるよう呼びかけます。

- これまで公共交通を利用してこなかった人に「乗車する機会」を提供するため、町が福祉関係者と連携し、地区ごと等で参加者を募り、実際に公共交通に乗って買い物等に出かけるツアー（高齢者等の乗車体験お出かけツアー）等を企画します。
- また、日または期間を限定し、バス等に無料で乗車できる「バス等無料デー」または「お試し乗車券」等の企画を行います。

この取り組みの主体

若狭町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
● (学校・地域・福祉 関連部門と連携)	● (企画への参加、協力)	● (学校・クラブ、 自治会・町内会等)	● (積極的な参加、利用)

(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)

取り組み 4-5

地域主体で考える機会の提供

人口減少、少子・高齢化が進む地区等で、近い将来における外出手段について地区の住民が中心となり主体的に「考える機会」を提供することによって、地区住民全体としての公共交通に対する意識の醸成を促していきます。

取り組みの内容

- 住民が主体的に取り組もうとする地区を対象として、単に要望を伝える場ではなく、今後の外出手段や公共交通の現状について住民が主体的に考える機会とすることを目的として、町と自治会等が連携し、各地区での「意見交換会」を開催します。また、地区住民が中心となったお出かけサービス（例えば、タクシーの相乗りや助け合いによる送迎サービス等）に主体的に取り組もうとする地区に対し、検討段階の会合等にアドバイザー（コンサルタント等）を派遣するなど、「考える機会」やその後の試験運行等を町がサポートする仕組みについて検討します。状況によっては、モデル的な地区等で先行的に試行します。

この取り組みの主体

若狭町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
● (サポートの仕組みの検討)		● (自治会・町内会等)	● (積極的な参加、利用)

(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)

方向性 5 まちのにぎわい創出に貢献します。

取り組み
5-1

観光と公共交通が連携した企画

本町には魅力的な観光資源があるため、公共交通を利用して、なるべく多くの人々が本町を来訪し、町内を回遊していただけるようにするため、公共交通が観光と連携した企画等を検討します。

取り組みの内容

- 本町の観光資源を活かした魅力ある企画きっぷやツアー、イベント等について、町の呼びかけにより、公共交通と観光等の関係者が定期的に意見交換を行い、可能性を検討します。有望なアイデア等がある場合には試行等を行います。

この取り組みの主体

若狭町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
● (観光関連部門と連携)	● (意見交換への参加)	● (観光関係者)	

(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)

取り組み
5-2

新幹線開業と観光資源を活かす周遊手段等の提供

2024年3月、嶺南地域は「北陸新幹線の敦賀駅開業」を迎えました。また、本町には複数の観光スポットがあります。公共交通を利用して、多くの観光客等に本町を来訪していただくとともに、嶺南地域の周遊や本町内の回遊をしていただけるようにする交通手段を検討し提供します。

取り組みの内容

- 2023年まで期間限定で休日に実証運行を行っていた本町のクマゴコバス、嶺南地域のゴイチバス等やこれらの連携による「周遊バス」を継続し、PR活動を強化します。あわせて、周遊バスと本町の公共交通やJR小浜線、JRバス若江線を含めた企画きっぷ等を検討します。
- 観光客の本町内の回遊に利用できるよう、わくわくタクシーの利用対象者を、「町民以外」にも拡大することを検討します。

また、「観光タクシー」（観光コースを設定した定額タクシー）の企画や、運行中の「観光ガイド（説明）」に向けた内容の企画や乗務員の養成について、町と運行事業者が可能性を検討します。

- 公共交通で本町に訪れた人の町内の回遊の促進を主眼として、すでに本町の駅に設置されているEVカーシェアを積極的にPRしていきます。

この取り組みの主体

若狭町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
● (観光関連部門と連携)	● (企画・PRへの参加、運行)	● (嶺南地域、観光関係者)	

(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)

取り組み 5-3

その他、来訪者の利便性の向上

観光等で公共交通を利用して本町を訪れた人の利便性を向上するとともに、リピーターを確保するため、鉄道、バス等の利用環境の充実、民間のサービスや新たな技術の活用に取り組んでいきます。

取り組みの内容

- 駅前や主な観光スポットのバス乗り場等で、初めて訪れる観光客等にもわかりやすい内容の案内を行うとともに、待ち環境を充実します。
- 若狭町コミュニティバス、わくわくタクシーのキャッシュレス化（二次元コード決済等）について、継続的に検討します。
- 民間サービスによる検索アプリやWEBサイト等で経路を検索できるように、バス等の運行情報のオープンデータ化と定期的な更新を継続します。その他、民間のアイデアによる多様なスマホアプリ、地域通貨等や、MaaS、自動運転など将来的な導入の可能性がある技術の動向について、町や運行事業者が継続的に情報収集を行います。

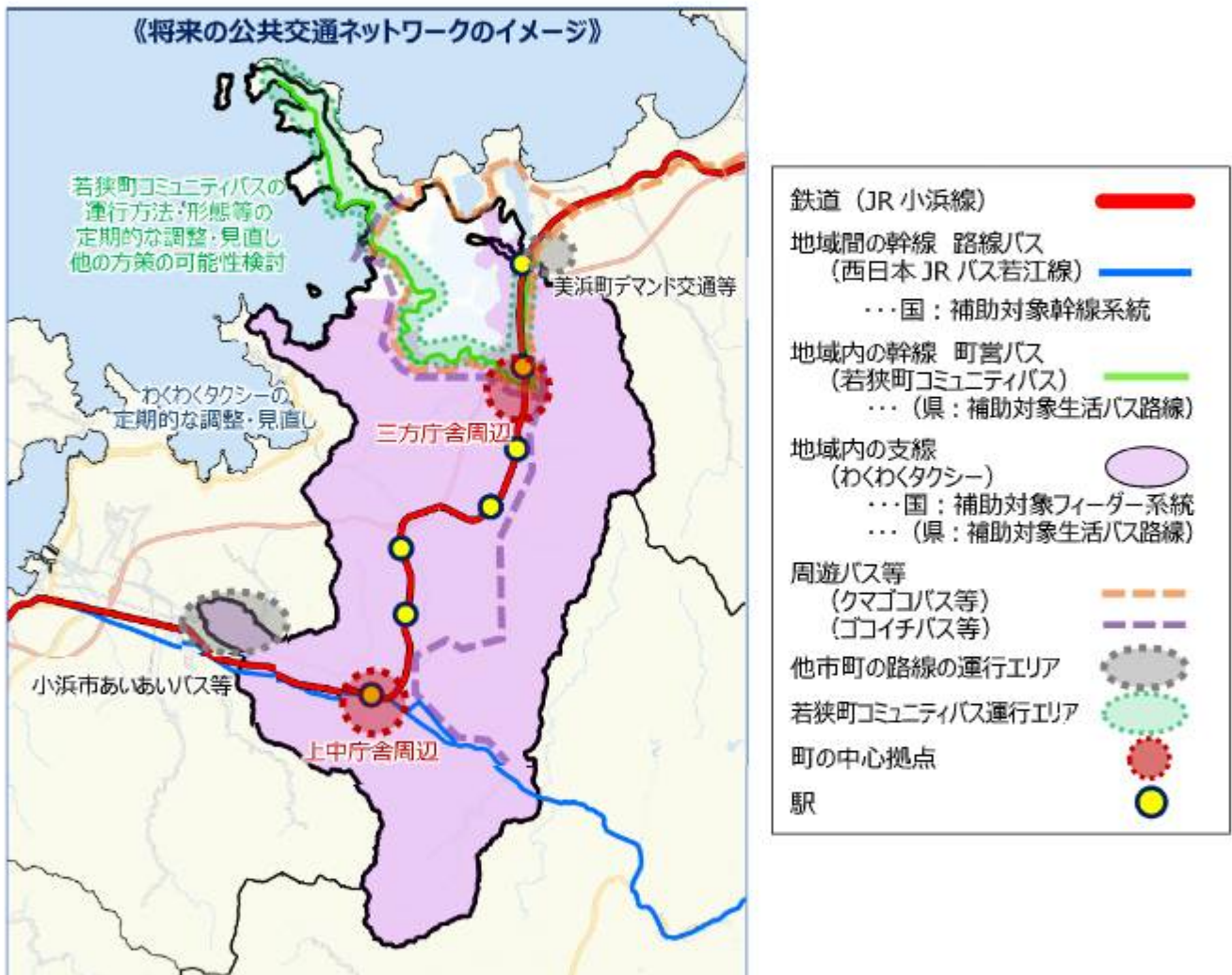
この取り組みの主体

若狭町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
● (観光関連部門と連携)	●	● (嶺南地域、観光関係者)	

(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)

《地域公共交通確保維持改善事業の活用等により確保・維持する公共交通ネットワーク》

本町の公共交通は、現在のネットワークの構成を活かし、地域の実情に応じた運行方法等の見直しや、新たな公共交通サービスの可能性、公共交通以外の送迎サービスとの連携等について検討しながら、将来まで持続し、日々の暮らしやまちづくりを支えていくことをめざします。また運行面だけでなく、待合環境やわかりやすさ、使いやすさの充実、町民の意識の醸成を通じた公共交通の利用促進を図るとともに、まちの賑わいへの貢献をめざした取り組みを行います。（なお、若狭町コミュニティバス、わくわくタクシーは、今後の利用状況等により運行方法等の見直しを行う場合においても、ネットワークの構成の中で、現在の役割を担っていきます。）



「わくわくタクシー（若狭町デマンドタクシー）」は、引き続き、国の「地域公共交通確保維持改善事業補助金（フィーダー系統）」を活用し運行を維持していきます。

わくわくタクシー（補助対象フィーダー系統）は、町内の鉄道駅、路線バス停留所に接続するとともに、町内の拠点施設と居住地をつなぐことにより、日常生活における移動を確保しており、本町の公共交通ネットワークを構成する上で重要な役割を担っています。一方で、町や事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持改善事業により運行を確保・維持する必要があります。

また、「若狭町コミュニティバス」と「わくわくタクシー」を合わせ、県の「生活バス路線維持対策事業」による補助を活用し運行を維持していきます。

「西日本 JR バス若江線は」は、引き続き、国の「地域公共交通確保維持改善事業補助金（幹線補助）」を活用し運行を維持していきます。

地域間の幹線である西日本 JR バス若江線（補助対象幹線系統）は、本町の鉄道駅（上中駅）に接続するとともに、本町と小浜市（小浜駅）、滋賀県（JR 湖西線・近江今津駅）の拠点や熊川宿等の観光施設を連絡することにより、日常生活における移動や観光での移動を確保しており、地域間の公共交通ネットワークを構成する上で重要な役割を担っています。一方で、事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持改善事業（幹線補助）により運行を確保・維持する必要があります。

《国の補助（地域公共交通確保維持改善事業）に係る事業及び主体の概要》

系統	起点	経由地	終点	運行形態	主体	補助事業の活用
西日本 JR バス 若江線	近江今津駅	上中駅	小浜駅	路線定期運行	バス事業者	幹線補助
わくわくタクシー (若狭町デマンドタクシー) (三方地域発、上中地域発)	若狭町全域 (常神、神子、小川、遊子、塩坂越、海山を除く)			区域運行 (起終点型 デマンド運行)	若狭町 (運行は事業者 者に委託)	フィーダー補助

《県の補助（生活バス路線維持対策事業）に係る事業及び主体の概要》

系統	起点	経由地	終点	運行形態	主体
若狭町コミュニティバス (町営バス常神三方線)	常神	三方駅	レイクヒルズ	路線定期運行 (一部デマンド運行)	若狭町 (運行は事業者 に委託)
わくわくタクシー (若狭町デマンドタクシー) (三方地域発、上中地域発)	若狭町全域 (常神、神子、小川、遊子、塩坂越、海山を除く)			区域運行 (起終点型デマンド運行)	若狭町 (運行は事業者 に委託)

なお、上記の系統については、後のⅦ章に示す通り、下記の利用客数の確保をめざします。

- 西日本 JR バス若江線の乗降客数（若狭町内のバス停の乗降客数計）
⇒106 千人/年（令和 10 年度）
- 町営バス常神三方線（若狭町コミュニティバス）、わくわくタクシー（若狭町デマンドタクシー）の利用客数計
⇒12 千人/年（令和 10 年度）

Ⅵ

今後の進め方



本町の公共交通がめざす姿の実現に向け、計画期間において、本計画に基づく取り組みを進めていきます。また、めざす姿が実現できているかどうかを確認するための指標と目標値を設け、評価・検証を行います。

《達成状況の検証》

計画を進めるに当たっては、PDCA（Plan・Do・Check・Action）のサイクルによる継続的な取り組みを行い、必要に応じて適宜改善を図っていきます。取り組みの実施状況、目標の達成状況については、各年度及び最終年度に確認・検証し若狭町地域公共交通会議で報告します。また今後、本町の公共交通を取りまく地域や社会の情勢、交通手段に関する技術革新の動向、人々の意識・行動や嗜好・流行の変化等によっては、計画内容の更新、見直し等を行うことも必要となります。



Plan : 計画・調整等
 Do : 取り組みの実行
 Check : 進捗状況の確認、評価・検証
 Action : 更新・見直し等

(取り組みの進め方)

	R 6年度				R 7年度				R 8年度				R 9年度				R 10年度			
	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1
Plan	次年度の計画・調整				次年度の計画・調整				次年度の計画・調整				次年度の計画・調整				次年度の計画・調整			
Do	取り組みの実行																			
Check					前年度の確認				前年度の確認				前年度の確認				前年度の確認 全体の評価・検証			
Action					更新・見直し等				更新・見直し等				更新・見直し等				更新・見直し等			

* 前年度の取り組み状況の確認、全体の評価・検証の結果は、若狭町地域公共交通会議で報告。

《評価指標と目標値》

本計画が「めざす姿」の実現に向けた「5つの方向性」に対し、達成状況を測るための“ものさし（目安）”として、評価指標と目標値を以下のように設定します。なお現況値については、令和5年度の基礎調査期間に入手可能な情報をもとに設定しました。新型コロナウイルス感染拡大後の外出行動の状況など、計画期間中に大きな変化があった場合には目標値の見直しを行います。

方向性 1 地域に見合った公共交通を将来にわたり持続します。

●達成イメージ： 町営の公共交通を、持続的に運行している。

町営の公共交通を持続的に運行し、人口減少が進展する状況においても現在と同等以上の利用客数を確保していることを指標とします。

・指標① 若狭町コミュニティバス、わくわくタクシー等の運行経費（町による投入額の確保）

現況値（令和4年度）	目標値（令和10年度）
55,647 千円／年	55,700 千円／年（現状確保）

・若狭町コミュニティバス（常神三方線）、わくわくタクシー（デマンドタクシー）等の合計。

・指標② 若狭町コミュニティバス、わくわくタクシー等の利用客数計

現況値（令和4年度）	目標値（令和10年度）
12 千人／年	12 千人／年

・若狭町コミュニティバス（常神三方線）、わくわくタクシー（デマンドタクシー）の合計。
（＊若狭町コミュニティバス（常神三方線）については、小中学生の利用数を除く。）
・「嶺南地域公共交通網形成計画」と整合（目標以上）

●達成イメージ： 鉄道・路線バスの日常的な利用客を確保できている。

人口減少、少子・高齢化が進展する状況においても、鉄道・路線バスの日常的な利用客（固定客）が現在と同等に確保されていることを指標とします。

・指標③ 小浜線の定期券購入への補助の延べ人数

現況値（令和4年度）	目標値（令和10年度）
569 人／年	600 人／年以上（現状以上）

・若狭町の実績

・指標④ JRバス若江線の回数券購入への補助の延べ冊数

現況値（令和4年度）	目標値（令和10年度）
12 冊／月	15 冊／月（現状以上）

・若狭町の実績

●達成イメージ： 町営の公共交通が、効率的に運営できている。

定期的な見直し等によって運行・運営が効率的になり、町営の公共交通の1便当たりの利用客数が増加していることを指標とします。（このことに伴い、収支率も、1人当たりの費用も良くなります。）

・指標⑤ 若狭町コミュニティバスの1便当たりの乗車人員

現況値（令和4年度）	目標値（令和10年度）
7.1人/便	7.5人/便（現状以上）

・若狭町コミュニティバス（常神三方線）の実績。

・指標⑥ わくわくタクシーの乗合率（1便当たりの乗車人数）

現況値（令和4年度）	目標値（令和10年度）
1.2人/便	1.3人/便（現状以上）

・わくわくタクシー（デマンドタクシー）の実績。

（参考指標）町営交通の収支率

現況値（令和4年度）
（若狭町コミュニティバス）6.9%
（わくわくタクシー）8.9%

方向性2 日々のお出かけを便利にする工夫・調整をします。

●達成イメージ： 公共交通を利用した外出が増えている。

町民等が日々の外出で公共交通を便利に使えるようになり、多くの人が公共交通を利用して外出していることを指標とします。

・指標⑦ 小浜線の鉄道駅（若狭町内）の年間乗車人員

現況値（令和4年度）	目標値（令和10年度）
301千人／年	330千人／年（現状以上）

- ・JR西日本調査結果による上中駅～気山駅の年間乗車人員の合計
- ・「第2次若狭町総合計画（中期基本計画）」の評価指標（KPI）
- ・「嶺南地域公共交通網形成計画」と整合（目標以上）

・指標⑧ JRバス若江線の乗降客数（若狭町内のバス停の乗降客数計）

現況値（令和4年度）	目標値（令和10年度）
80千人／年	106千人／年（現状以上）

- ・西日本JRバス調査結果
- ・「第2次若狭町総合計画（中期基本計画）」の評価指標（KPI）
- ・「嶺南地域公共交通網形成計画」と整合（目標以上）

●達成イメージ：公共交通がうまく使われている。

利用時の割引制度等を継続しPR活動を積極的に行うことによって、複数の公共交通をうまく使う町民等が増えていることを指標とします。

・指標⑨ 「乗り継ぎ乗車券」（若狭町コミュニティバス、わくわくタクシー）と「タクシー利用補助」（小浜線との乗り継ぎ）の利用件数計

現況値（令和4年度）	目標値（令和10年度まで）
1件／年	50件／5年

- ・若狭町コミュニティバス（常神三方線）・わくわくタクシー（デマンドタクシー）、町内タクシーの実績。

方向性 3

使ってみたくなる環境づくりをします。
(わかりやすさ・やさしさ)

●達成イメージ：公共交通のことを知っている町民、使って満足している町民が増えている。

公共交通全体のわかりやすさ・やさしさが充実し、町内の公共交通に対する町民の認知度、満足度が向上していることを指標とします。

・指標⑩ 町内の公共交通の認知度（知らない町民の割合）

現況値（令和 4 年度）	目標値（令和 10 年度）
（小浜線） 1%	0%
（JR バス若江線） 40%	30%以下
（若狭町コミュニティバス） 38%	30%以下
（わくわくタクシー） 36%	25%以下

・町民アンケート結果（R4）による知らない人の割合

・指標⑪ 町内の公共交通に不満な人の割合

現況値（令和 4 年度）	目標値（令和 10 年度）
（小浜線） 33%	25%以下
（JR バス若江線） 18%	10%以下
（若狭町コミュニティバス） 16%	10%以下
（わくわくタクシー） 17%	10%以下

・町民アンケート結果（R4）による「不満」「やや不満」との回答の計
(利用していない人を除く割合)

方向性 4

クルマに依存しすぎた外出スタイルを見直し、少しずつでも、公共交通を活かす意識を育みます。(利用・理解)

●達成イメージ：公共交通への意識の醸成を主旨とする取り組みが着実に進んでいる。

町民に対しクルマしか使わない外出スタイルの見直し、公共交通への意識の醸成を促す取り組み（モビリティ・マネジメント）が着実に進んでいることを指標とします。

・指標⑫ 意識の醸成（モビリティ・マネジメント）を主旨とする会合・イベントの開催回数

現況値（令和4年度）	目標値（令和10年度まで）
—	10回／5年以上

- ・モビリティ・マネジメントを主旨とする町民の会合等の開催回数、地区・イベント等へ出向いての広報活動の実施回数
- ・「嶺南地域公共交通網形成計画」と整合

●達成イメージ： 使える時に公共交通を使う外出スタイルが徐々に拡がっている。

意識の醸成を促す取り組みにより、公共交通を全く使わない町民が減少していることを指標とします。

・指標⑬ 公共交通を「全く利用していない」という町民の割合

現況値（令和4年度）	目標値（令和10年度）
（小浜線）66%	55%以下
（JRバス若江線）87%	75%以下
（一般タクシー）90%	80%以下

- ・町民アンケート結果（R4）による「（年に一度も）利用していない」との回答

・指標⑭ 居住地区の公共交通を「全く利用していない」という町民の割合

現況値（令和4年度）	目標値（令和10年度）
（若狭町コミュニティバス）98%	90%以下
（わくわくタクシー）96%	85%以下

- ・運行エリアの居住者へのアンケート結果（R4）による「（年に一度も）利用していない」との回答

方向性5 まちのにぎわい創出に貢献します。

●達成イメージ： まちの賑わいに貢献する公共交通の取り組みが着実に行われている。

観光と公共交通が連携した取り組みが着実に行われていることを指標とします。

・指標⑮ 公共交通が連携した集客や周遊・回遊の企画の件数

現況値（令和4年度）	目標値（令和10年度）
—	3件/年以上

・公共交通が連携したイベント・キャンペーン・企画の件数

●達成イメージ：公共交通を利用して来訪、周遊・回遊する人が増えている。

観光と公共交通が連携した取り組みが行われ、公共交通を利用する観光客が増加していることを指標とします。

・指標⑯ 中心駅（上中駅・三方駅）の1日平均乗車人員の合計（定期外利用客）

現況値（令和3年度）	目標値（令和10年度）
42人/日	50人/日以上

・福井県統計年鑑による上中駅・三方駅の1日平均乗車人員（定期外利用客）。

《進捗管理》

計画全体の取り組みの進捗確認や結果の評価・検証を行う主体が必要であり、「若狭町地域公共交通会議」において行います。

《今後の取り組みのスケジュール》

取り組みごとの具体的な実施体制等について調整・決定し、令和6年度(2025年度)以降の5年間で、具体的な実施内容や方法の検討、準備等を行いながら取り組みを進めます。必要に応じて試行、実証運行をふまえながら取り組み、状況によっては計画の見直しも適宜行っていきます。取り組みの進捗状況や、指標とした数値の経過を把握可能なものについて毎年確認を行い、最終的な目標の達成状況を令和10年度(2028年度)に検証します。

取り組み		計画期間				
		2025 (R6)	2026 (R7)	2027 (R8)	2028 (R9)	2028 (R10)
1. 地域に見合った公共交通を将来にわたり持続します。						
1-1	町営の公共交通の持続的な運行	継続、定期的な見直し				
1-2	日常的な利用客の確保	継続、PR活動				
1-3	安定的・効率的な運用のための方策の検討・実施	継続、定期的な意見交換、検討 状況に応じ試行・実証運行等				
2. 日々のお出かけを便利にする工夫・調整をします。						
2-1	町民の外出の利便性向上のための運行・運用方法の充実	継続、検討、調整		状況に応じ試行・実証運行等		
2-2	通学の利便性向上のための運行方法の調整	検討、調整		状況に応じ試行・実証運行等		
3. 使ってみたくなる環境づくりをします。(わかりやすさ・やさしさ)						
3-1	町の公共交通全体のわかりやすさの充実	検討、調整	準備、実施			
3-2	乗り場（現地）での案内の充実	検討、調整	準備、実施			
3-3	施設内の待合環境の充実	検討、調整		準備、実施		
3-4	人にも地球にもやさしい車両の導入	検討、調整、準備、実施				
3-5	福祉と連携した外出支援	継続的に実施				
4. クルマに依存しすぎた外出スタイルを見直し、少しずつでも、公共交通を活かす意識を育みます。(利用・理解)						
4-1	町民への広報PR	継続、企画、調整 状況に応じ試行等				
4-2	免許返納者へのサポート	継続、企画、調整 状況に応じ試行等				
4-3	小浜線の利用促進活動	継続的に実施				
4-4	町民の利用意識の醸成（モビリティ・マネジメントへの挑戦）	継続、企画、調整 状況に応じ試行等				
4-5	地域主体で考える機会の提供	継続、企画、調整 状況に応じ試行等				
5. まちのにぎわい創出に貢献します。						
5-1	観光と公共交通が連携した企画	継続、定期的な意見交換、企画 状況に応じ試行等				
5-2	新幹線開業と観光資源を活かす周遊手段等の提供	継続、企画、調整 状況に応じ試行等				
5-3	その他、来訪者の利便性の向上	継続的に検討、情報収集				

(取り組みの検証)

- 実施状況、把握可能な指標を、毎年チェック
- 最終年度に、すべての取り組み、全目標値の達成状況を検証

